臺灣日日新報 昭和七年一月九日 第一万一千四百三號 (土曜日)
臺灣新報 (第二版) (昭和七年一月九日第三種郵便物認可)
臺灣新報 (第四版) (昭和七年一月九日第三種郵便物認可)

米政府滿洲事變を不戰條約に訴ふ

關係列國相率ゐて我政府に新に通牒

(ワシントン七日發電通至急報)アメリカ政府は滿洲事變に對し不戰條約を適用することとなつた

九ケ國條約を適用

(華府七日發聯合)國務長官スチムソン氏は本日英佛大使等と會見の結果日本軍の滿洲占據に關し關係列國相率ゐて日本政府に斷然或種の外交手段に訴へるに決した尚外交手段として九ケ國條約を適用する

九國條約中の用語を使用

ス長官說明書を發表

【ワシントン七日發聯合】スチムソン長官は十日午後四時(我が八日午前六時)新聞記者に左記滿洲問題に付き聲明書を發表する

【ワシントン七日發電通】スチムソン長官は本日英佛大使等と會見の結果日本軍の滿洲占據に關し關係列國相率ゐて日本政府に斷然或種の外交手段に訴へるに決した尚外交手段として九ケ國條約を適用する

【ワシントン七日發電通】アメリカ政府は滿洲の情勢に鑑み不戰條約に訴へるに當り九國條約中の用語を使用することになつた、有力當局のナブザーか滿洲の情勢は同條約の當事國の一部に戰鬪行爲ありと見らるるものと見らるる

【ワシントン七日發電通】スチムソン長官は十日午後四時(我が八日午前六時)新聞記者に左記滿洲問題に付き聲明書を發表する

不戰條約適用の手續

駐日米國大使に訓電

【ワシントン七日發電通】アメリカ政府は滿洲事變を不戰條約に訴へることとなつたがその手續は在東京アメリカ大使館を通じて爲すこととなり、この旨同大使に訓電した、尚スチムソン長官は七日午前出淵大使を招き不戰條約を適用するに至つた事情を說明した

通牒內容は相當強硬

【ワシントン七日發聯合】日本軍の錦州占據に基く滿洲の情勢に關し米政府は本日日本政府に對し新に通牒を發したがその內容は九ケ國條約並にケロッグ不戰條約を初めとする今回の事件に適用し得べき國際諸條約の下において自國の權益をあくまで擁護すべき事をその骨子としたものである、右通牒は即時公表されるものと見られるが用語は頗る且つ相當強硬なるものと解される、尤も國務省當局は未だ今回の該行動に關する論議を避け對支禁輸問題解決後の事業

【東京八日發電通】今や全國民は擧國一致の下に滿蒙の權益を擁護すべく重大決意を固めつゝあるが、この時に當り外務、陸軍兩當局は滿蒙問題解決の根本方針に關し協議を遂げ、その結果を發表することとなつた

外務と陸軍が聯合協議會

滿洲對策について

【東京八日發電通】外務、陸軍兩當局は滿蒙問題解決の根本方針に關し協議を遂げ、その結果を發表することとなつた

一、滿蒙問題解決の當事者に當たるは帝國政府なりとの建前より、あくまで帝國政府の責任において解決を圖る

一、滿蒙問題解決の方法としては、國際聯盟規約並に不戰條約の精神に則り、平和的手段によるを本則とするも、我が正當且つ合理的の主張にして容認せらるゝ限り、武力の使用をも辭せざる決意を以て臨むこと

一、滿蒙問題解決の時期としては、なるべく速かに解決を圖ること

陸相が關東軍に感謝の電報

一段落がついて

【東京八日發電通】今や全國民は擧國一致の下に滿蒙の權益を擁護すべく重大決意を固めつゝあるが、この時に當り外務、陸軍兩當局は滿蒙問題解決の根本方針に關し協議を遂げ、その結果を發表することとなつた

結局國際會議開催か

外交通マレー教授の見解

【倫敦七日發聯合】米國務長官スチムソン氏は本日英佛大使等と會見の結果日本軍の滿洲占據に關し關係列國相率ゐて日本政府に斷然或種の外交手段に訴へるに決した尚外交手段として九ケ國條約を適用する

大元帥陛下の行幸を仰ぎ けふ陸軍始大観兵式

霜深き代々木原頭に 飛行機五十四臺も參加して

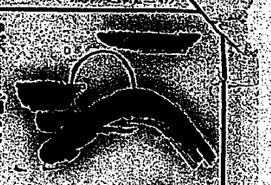
陸軍始の觀兵式は九日午前九時から代々木原頭に於て擧行された、陛下には午前七時半から騎馬にて青山御所を御出門、同九時十分前原頭に到着あらせられ、直ちに閲兵の御儀を行はせられた、閲兵官は陸軍大臣荒木貞夫大將、參加部隊は近衛師團、第一師團、第十四師團、騎兵旅團、野砲兵旅團、重砲兵旅團、飛行第一聯隊、同第二聯隊、同第四聯隊、同第五聯隊、同第六聯隊、同第七聯隊、同第八聯隊、同第九聯隊、同第十聯隊、同第十一聯隊、同第十二聯隊、同第十三聯隊、同第十四聯隊、同第十五聯隊、同第十六聯隊、同第十七聯隊、同第十八聯隊、同第十九聯隊、同第二十聯隊、同第二十一聯隊、同第二十二聯隊、同第二十三聯隊、同第二十四聯隊、同第二十五聯隊、同第二十六聯隊、同第二十七聯隊、同第二十八聯隊、同第二十九聯隊、同第三十聯隊、同第三十一聯隊、同第三十二聯隊、同第三十三聯隊、同第三十四聯隊、同第三十五聯隊、同第三十六聯隊、同第三十七聯隊、同第三十八聯隊、同第三十九聯隊、同第四十聯隊、同第四十一聯隊、同第四十二聯隊、同第四十三聯隊、同第四十四聯隊、同第四十五聯隊、同第四十六聯隊、同第四十七聯隊、同第四十八聯隊、同第四十九聯隊、同第五十聯隊、同第五十一聯隊、同第五十二聯隊、同第五十三聯隊、同第五十四聯隊、同第五十五聯隊、同第五十六聯隊、同第五十七聯隊、同第五十八聯隊、同第五十九聯隊、同第六十聯隊、同第六十一聯隊、同第六十二聯隊、同第六十三聯隊、同第六十四聯隊、同第六十五聯隊、同第六十六聯隊、同第六十七聯隊、同第六十八聯隊、同第六十九聯隊、同第七十聯隊、同第七十一聯隊、同第七十二聯隊、同第七十三聯隊、同第七十四聯隊、同第七十五聯隊、同第七十六聯隊、同第七十七聯隊、同第七十八聯隊、同第七十九聯隊、同第八十聯隊、同第八十一聯隊、同第八十二聯隊、同第八十三聯隊、同第八十四聯隊、同第八十五聯隊、同第八十六聯隊、同第八十七聯隊、同第八十八聯隊、同第八十九聯隊、同第九十聯隊、同第九十一聯隊、同第九十二聯隊、同第九十三聯隊、同第九十四聯隊、同第九十五聯隊、同第九十六聯隊、同第九十七聯隊、同第九十八聯隊、同第九十九聯隊、同第百聯隊、同第百一聯隊、同第百二聯隊、同第百三聯隊、同第百四聯隊、同第百五聯隊、同第百六聯隊、同第百七聯隊、同第百八聯隊、同第百九聯隊、同第百十聯隊、同第百十一聯隊、同第百十二聯隊、同第百十三聯隊、同第百十四聯隊、同第百十五聯隊、同第百十六聯隊、同第百十七聯隊、同第百十八聯隊、同第百十九聯隊、同第百二十聯隊、同第百二十一聯隊、同第百二十二聯隊、同第百二十三聯隊、同第百二十四聯隊、同第百二十五聯隊、同第百二十六聯隊、同第百二十七聯隊、同第百二十八聯隊、同第百二十九聯隊、同第百三十聯隊、同第百三十一聯隊、同第百三十二聯隊、同第百三十三聯隊、同第百三十四聯隊、同第百三十五聯隊、同第百三十六聯隊、同第百三十七聯隊、同第百三十八聯隊、同第百三十九聯隊、同第百四十聯隊、同第百四十一聯隊、同第百四十二聯隊、同第百四十三聯隊、同第百四十四聯隊、同第百四十五聯隊、同第百四十六聯隊、同第百四十七聯隊、同第百四十八聯隊、同第百四十九聯隊、同第百五十聯隊、同第百五十一聯隊、同第百五十二聯隊、同第百五十三聯隊、同第百五十四聯隊、同第百五十五聯隊、同第百五十六聯隊、同第百五十七聯隊、同第百五十八聯隊、同第百五十九聯隊、同第百六十聯隊、同第百六十一聯隊、同第百六十二聯隊、同第百六十三聯隊、同第百六十四聯隊、同第百六十五聯隊、同第百六十六聯隊、同第百六十七聯隊、同第百六十八聯隊、同第百六十九聯隊、同第百七十聯隊、同第百七十一聯隊、同第百七十二聯隊、同第百七十三聯隊、同第百七十四聯隊、同第百七十五聯隊、同第百七十六聯隊、同第百七十七聯隊、同第百七十八聯隊、同第百七十九聯隊、同第百八十聯隊、同第百八十一聯隊、同第百八十二聯隊、同第百八十三聯隊、同第百八十四聯隊、同第百八十五聯隊、同第百八十六聯隊、同第百八十七聯隊、同第百八十八聯隊、同第百八十九聯隊、同第百九十聯隊、同第百九十一聯隊、同第百九十二聯隊、同第百九十三聯隊、同第百九十四聯隊、同第百九十五聯隊、同第百九十六聯隊、同第百九十七聯隊、同第百九十八聯隊、同第百九十九聯隊、同第二百聯隊、同第二百一聯隊、同第二百二聯隊、同第二百三聯隊、同第二百四聯隊、同第二百五聯隊、同第二百六聯隊、同第二百七聯隊、同第二百八聯隊、同第二百九聯隊、同第二百十聯隊、同第二百十一聯隊、同第二百十二聯隊、同第二百十三聯隊、同第二百十四聯隊、同第二百十五聯隊、同第二百十六聯隊、同第二百十七聯隊、同第二百十八聯隊、同第二百十九聯隊、同第二百二十聯隊、同第二百二十一聯隊、同第二百二十二聯隊、同第二百二十三聯隊、同第二百二十四聯隊、同第二百二十五聯隊、同第二百二十六聯隊、同第二百二十七聯隊、同第二百二十八聯隊、同第二百二十九聯隊、同第二百三十聯隊、同第二百三十一聯隊、同第二百三十二聯隊、同第二百三十三聯隊、同第二百三十四聯隊、同第二百三十五聯隊、同第二百三十六聯隊、同第二百三十七聯隊、同第二百三十八聯隊、同第二百三十九聯隊、同第二百四十聯隊、同第二百四十一聯隊、同第二百四十二聯隊、同第二百四十三聯隊、同第二百四十四聯隊、同第二百四十五聯隊、同第二百四十六聯隊、同第二百四十七聯隊、同第二百四十八聯隊、同第二百四十九聯隊、同第二百五十聯隊、同第二百五十一聯隊、同第二百五十二聯隊、同第二百五十三聯隊、同第二百五十四聯隊、同第二百五十五聯隊、同第二百五十六聯隊、同第二百五十七聯隊、同第二百五十八聯隊、同第二百五十九聯隊、同第二百六十聯隊、同第二百六十一聯隊、同第二百六十二聯隊、同第二百六十三聯隊、同第二百六十四聯隊、同第二百六十五聯隊、同第二百六十六聯隊、同第二百六十七聯隊、同第二百六十八聯隊、同第二百六十九聯隊、同第二百七十聯隊、同第二百七十一聯隊、同第二百七十二聯隊、同第二百七十三聯隊、同第二百七十四聯隊、同第二百七十五聯隊、同第二百七十六聯隊、同第二百七十七聯隊、同第二百七十八聯隊、同第二百七十九聯隊、同第二百八十聯隊、同第二百八十一聯隊、同第二百八十二聯隊、同第二百八十三聯隊、同第二百八十四聯隊、同第二百八十五聯隊、同第二百八十六聯隊、同第二百八十七聯隊、同第二百八十八聯隊、同第二百八十九聯隊、同第二百九十聯隊、同第二百九十一聯隊、同第二百九十二聯隊、同第二百九十三聯隊、同第二百九十四聯隊、同第二百九十五聯隊、同第二百九十六聯隊、同第二百九十七聯隊、同第二百九十八聯隊、同第二百九十九聯隊、同第三百聯隊、同第三百一聯隊、同第三百二聯隊、同第三百三聯隊、同第三百四聯隊、同第三百五聯隊、同第三百六聯隊、同第三百七聯隊、同第三百八聯隊、同第三百九聯隊、同第三百十聯隊、同第三百十一聯隊、同第三百十二聯隊、同第三百十三聯隊、同第三百十四聯隊、同第三百十五聯隊、同第三百十六聯隊、同第三百十七聯隊、同第三百十八聯隊、同第三百十九聯隊、同第三百二十聯隊、同第三百二十一聯隊、同第三百二十二聯隊、同第三百二十三聯隊、同第三百二十四聯隊、同第三百二十五聯隊、同第三百二十六聯隊、同第三百二十七聯隊、同第三百二十八聯隊、同第三百二十九聯隊、同第三百三十聯隊、同第三百三十一聯隊、同第三百三十二聯隊、同第三百三十三聯隊、同第三百三十四聯隊、同第三百三十五聯隊、同第三百三十六聯隊、同第三百三十七聯隊、同第三百三十八聯隊、同第三百三十九聯隊、同第三百四十聯隊、同第三百四十一聯隊、同第三百四十二聯隊、同第三百四十三聯隊、同第三百四十四聯隊、同第三百四十五聯隊、同第三百四十六聯隊、同第三百四十七聯隊、同第三百四十八聯隊、同第三百四十九聯隊、同第三百五十聯隊、同第三百五十一聯隊、同第三百五十二聯隊、同第三百五十三聯隊、同第三百五十四聯隊、同第三百五十五聯隊、同第三百五十六聯隊、同第三百五十七聯隊、同第三百五十八聯隊、同第三百五十九聯隊、同第三百六十聯隊、同第三百六十一聯隊、同第三百六十二聯隊、同第三百六十三聯隊、同第三百六十四聯隊、同第三百六十五聯隊、同第三百六十六聯隊、同第三百六十七聯隊、同第三百六十八聯隊、同第三百六十九聯隊、同第三百七十聯隊、同第三百七十一聯隊、同第三百七十二聯隊、同第三百七十三聯隊、同第三百七十四聯隊、同第三百七十五聯隊、同第三百七十六聯隊、同第三百七十七聯隊、同第三百七十八聯隊、同第三百七十九聯隊、同第三百八十聯隊、同第三百八十一聯隊、同第三百八十二聯隊、同第三百八十三聯隊、同第三百八十四聯隊、同第三百八十五聯隊、同第三百八十六聯隊、同第三百八十七聯隊、同第三百八十八聯隊、同第三百八十九聯隊、同第三百九十聯隊、同第三百九十一聯隊、同第三百九十二聯隊、同第三百九十三聯隊、同第三百九十四聯隊、同第三百九十五聯隊、同第三百九十六聯隊、同第三百九十七聯隊、同第三百九十八聯隊、同第三百九十九聯隊、同第四百聯隊、同第四百一聯隊、同第四百二聯隊、同第四百三聯隊、同第四百四聯隊、同第四百五聯隊、同第四百六聯隊、同第四百七聯隊、同第四百八聯隊、同第四百九聯隊、同第四百十聯隊、同第四百十一聯隊、同第四百十二聯隊、同第四百十三聯隊、同第四百十四聯隊、同第四百十五聯隊、同第四百十六聯隊、同第四百十七聯隊、同第四百十八聯隊、同第四百十九聯隊、同第四百二十聯隊、同第四百二十一聯隊、同第四百二十二聯隊、同第四百二十三聯隊、同第四百二十四聯隊、同第四百二十五聯隊、同第四百二十六聯隊、同第四百二十七聯隊、同第四百二十八聯隊、同第四百二十九聯隊、同第四百三十聯隊、同第四百三十一聯隊、同第四百三十二聯隊、同第四百三十三聯隊、同第四百三十四聯隊、同第四百三十五聯隊、同第四百三十六聯隊、同第四百三十七聯隊、同第四百三十八聯隊、同第四百三十九聯隊、同第四百四十聯隊、同第四百四十一聯隊、同第四百四十二聯隊、同第四百四十三聯隊、同第四百四十四聯隊、同第四百四十五聯隊、同第四百四十六聯隊、同第四百四十七聯隊、同第四百四十八聯隊、同第四百四十九聯隊、同第四百五十聯隊、同第四百五十一聯隊、同第四百五十二聯隊、同第四百五十三聯隊、同第四百五十四聯隊、同第四百五十五聯隊、同第四百五十六聯隊、同第四百五十七聯隊、同第四百五十八聯隊、同第四百五十九聯隊、同第四百六十聯隊、同第四百六十一聯隊、同第四百六十二聯隊、同第四百六十三聯隊、同第四百六十四聯隊、同第四百六十五聯隊、同第四百六十六聯隊、同第四百六十七聯隊、同第四百六十八聯隊、同第四百六十九聯隊、同第四百七十聯隊、同第四百七十一聯隊、同第四百七十二聯隊、同第四百七十三聯隊、同第四百七十四聯隊、同第四百七十五聯隊、同第四百七十六聯隊、同第四百七十七聯隊、同第四百七十八聯隊、同第四百七十九聯隊、同第四百八十聯隊、同第四百八十一聯隊、同第四百八十二聯隊、同第四百八十三聯隊、同第四百八十四聯隊、同第四百八十五聯隊、同第四百八十六聯隊、同第四百八十七聯隊、同第四百八十八聯隊、同第四百八十九聯隊、同第四百九十聯隊、同第四百九十一聯隊、同第四百九十二聯隊、同第四百九十三聯隊、同第四百九十四聯隊、同第四百九十五聯隊、同第四百九十六聯隊、同第四百九十七聯隊、同第四百九十八聯隊、同第四百九十九聯隊、同第五百聯隊、同第五百一聯隊、同第五百二聯隊、同第五百三聯隊、同第五百四聯隊、同第五百五聯隊、同第五百六聯隊、同第五百七聯隊、同第五百八聯隊、同第五百九聯隊、同第五百十聯隊、同第五百十一聯隊、同第五百十二聯隊、同第五百十三聯隊、同第五百十四聯隊、同第五百十五聯隊、同第五百十六聯隊、同第五百十七聯隊、同第五百十八聯隊、同第五百十九聯隊、同第五百二十聯隊、同第五百二十一聯隊、同第五百二十二聯隊、同第五百二十三聯隊、同第五百二十四聯隊、同第五百二十五聯隊、同第五百二十六聯隊、同第五百二十七聯隊、同第五百二十八聯隊、同第五百二十九聯隊、同第五百三十聯隊、同第五百三十一聯隊、同第五百三十二聯隊、同第五百三十三聯隊、同第五百三十四聯隊、同第五百三十五聯隊、同第五百三十六聯隊、同第五百三十七聯隊、同第五百三十八聯隊、同第五百三十九聯隊、同第五百四十聯隊、同第五百四十一聯隊、同第五百四十二聯隊、同第五百四十三聯隊、同第五百四十四聯隊、同第五百四十五聯隊、同第五百四十六聯隊、同第五百四十七聯隊、同第五百四十八聯隊、同第五百四十九聯隊、同第五百五十聯隊、同第五百五十一聯隊、同第五百五十二聯隊、同第五百五十三聯隊、同第五百五十四聯隊、同第五百五十五聯隊、同第五百五十六聯隊、同第五百五十七聯隊、同第五百五十八聯隊、同第五百五十九聯隊、同第五百六十聯隊、同第五百六十一聯隊、同第五百六十二聯隊、同第五百六十三聯隊、同第五百六十四聯隊、同第五百六十五聯隊、同第五百六十六聯隊、同第五百六十七聯隊、同第五百六十八聯隊、同第五百六十九聯隊、同第五百七十聯隊、同第五百七十一聯隊、同第五百七十二聯隊、同第五百七十三聯隊、同第五百七十四聯隊、同第五百七十五聯隊、同第五百七十六聯隊、同第五百七十七聯隊、同第五百七十八聯隊、同第五百七十九聯隊、同第五百八十聯隊、同第五百八十一聯隊、同第五百八十二聯隊、同第五百八十三聯隊、同第五百八十四聯隊、同第五百八十五聯隊、同第五百八十六聯隊、同第五百八十七聯隊、同第五百八十八聯隊、同第五百八十九聯隊、同第五百九十聯隊、同第五百九十一聯隊、同第五百九十二聯隊、同第五百九十三聯隊、同第五百九十四聯隊、同第五百九十五聯隊、同第五百九十六聯隊、同第五百九十七聯隊、同第五百九十八聯隊、同第五百九十九聯隊、同第六百聯隊、同第六百一聯隊、同第六百二聯隊、同第六百三聯隊、同第六百四聯隊、同第六百五聯隊、同第六百六聯隊、同第六百七聯隊、同第六百八聯隊、同第六百九聯隊、同第六百十聯隊、同第六百十一聯隊、同第六百十二聯隊、同第六百十三聯隊、同第六百十四聯隊、同第六百十五聯隊、同第六百十六聯隊、同第六百十七聯隊、同第六百十八聯隊、同第六百十九聯隊、同第六百二十聯隊、同第六百二十一聯隊、同第六百二十二聯隊、同第六百二十三聯隊、同第六百二十四聯隊、同第六百二十五聯隊、同第六百二十六聯隊、同第六百二十七聯隊、同第六百二十八聯隊、同第六百二十九聯隊、同第六百三十聯隊、同第六百三十一聯隊、同第六百三十二聯隊、同第六百三十三聯隊、同第六百三十四聯隊、同第六百三十五聯隊、同第六百三十六聯隊、同第六百三十七聯隊、同第六百三十八聯隊、同第六百三十九聯隊、同第六百四十聯隊、同第六百四十一聯隊、同第六百四十二聯隊、同第六百四十三聯隊、同第六百四十四聯隊、同第六百四十五聯隊、同第六百四十六聯隊、同第六百四十七聯隊、同第六百四十八聯隊、同第六百四十九聯隊、同第六百五十聯隊、同第六百五十一聯隊、同第六百五十二聯隊、同第六百五十三聯隊、同第六百五十四聯隊、同第六百五十五聯隊、同第六百五十六聯隊、同第六百五十七聯隊、同第六百五十八聯隊、同第六百五十九聯隊、同第六百六十聯隊、同第六百六十一聯隊、同第六百六十二聯隊、同第六百六十三聯隊、同第六百六十四聯隊、同第六百六十五聯隊、同第六百六十六聯隊、同第六百六十七聯隊、同第六百六十八聯隊、同第六百六十九聯隊、同第六百七十聯隊、同第六百七十一聯隊、同第六百七十二聯隊、同第六百七十三聯隊、同第六百七十四聯隊、同第六百七十五聯隊、同第六百七十六聯隊、同第六百七十七聯隊、同第六百七十八聯隊、同第六百七十九聯隊、同第六百八十聯隊、同第六百八十一聯隊、同第六百八十二聯隊、同第六百八十三聯隊、同第六百八十四聯隊、同第六百八十五聯隊、同第六百八十六聯隊、同第六百八十七聯隊、同第六百八十八聯隊、同第六百八十九聯隊、同第六百九十聯隊、同第六百九十一聯隊、同第六百九十二聯隊、同第六百九十三聯隊、同第六百九十四聯隊、同第六百九十五聯隊、同第六百九十六聯隊、同第六百九十七聯隊、同第六百九十八聯隊、同第六百九十九聯隊、同第七百聯隊、同第七百一聯隊、同第七百二聯隊、同第七百三聯隊、同第七百四聯隊、同第七百五聯隊、同第七百六聯隊、同第七百七聯隊、同第七百八聯隊、同第七百九聯隊、同第七百十聯隊、同第七百十一聯隊、同第七百十二聯隊、同第七百十三聯隊、同第七百十四聯隊、同第七百十五聯隊、同第七百十六聯隊、同第七百十七聯隊、同第七百十八聯隊、同第七百十九聯隊、同第七百二十聯隊、同第七百二十一聯隊、同第七百二十二聯隊、同第七百二十三聯隊、同第七百二十四聯隊、同第七百二十五聯隊、同第七百二十六聯隊、同第七百二十七聯隊、同第七百二十八聯隊、同第七百二十九聯隊、同第七百三十聯隊、同第七百三十一聯隊、同第七百三十二聯隊、同第七百三十三聯隊、同第七百三十四聯隊、同第七百三十五聯隊、同第七百三十六聯隊、同第七百三十七聯隊、同第七百三十八聯隊、同第七百三十九聯隊、同第七百四十聯隊、同第七百四十一聯隊、同第七百四十二聯隊、同第七百四十三聯隊、同第七百四十四聯隊、同第七百四十五聯隊、同第七百四十六聯隊、同第七百四十七聯隊、同第七百四十八聯隊、同第七百四十九聯隊、同第七百五十聯隊、同第七百五十一聯隊、同第七百五十二聯隊、同第七百五十三聯隊、同第七百五十四聯隊、同第七百五十五聯隊、同第七百五十六聯隊、同第七百五十七聯隊、同第七百五十八聯隊、同第七百五十九聯隊、同第七百六十聯隊、同第七百六十一聯隊、同第七百六十二聯隊、同第七百六十三聯隊、同第七百六十四聯隊、同第七百六十五聯隊、同第七百六十六聯隊、同第七百六十七聯隊、同第七百六十八聯隊、同第七百六十九聯隊、同第七百七十聯隊、同第七百七十一聯隊、同第七百七十二聯隊、同第七百七十三聯隊、同第七百七十四聯隊、同第七百七十五聯隊、同第七百七十六聯隊、同第七百七十七聯隊、同第七百七十八聯隊、同第七百七十九聯隊、同第七百八十聯隊、同第七百八十一聯隊、同第七百八十二聯隊、同第七百八十三聯隊、同第七百八十四聯隊、同第七百八十五聯隊、同第七百八十六聯隊、同第七百八十七聯隊、同第七百八十八聯隊、同第七百八十九聯隊、同第七百九十聯隊、同第七百九十一聯隊、同第七百九十二聯隊、同第七百九十三聯隊、同第七百九十四聯隊、同第七百九十五聯隊、同第七百九十六聯隊、同第七百九十七聯隊、同第七百九十八聯隊、同第七百九十九聯隊、同第八百聯隊、同第八百一聯隊、同第八百二聯隊、同第八百三聯隊、同第八百四聯隊、同第八百五聯隊、同第八百六聯隊、同第八百七聯隊、同第八百八聯隊、同第八百九聯隊、同第八百十聯隊、同第八百十一聯隊、同第八百十二聯隊、同第八百十三聯隊、同第八百十四聯隊、同第八百十五聯隊、同第八百十六聯隊、同第八百十七聯隊、同第八百十八聯隊、同第八百十九聯隊、同第八百二十聯隊、同第八百二十一聯隊、同第八百二十二聯隊、同第八百二十三聯隊、同第八百二十四聯隊、同第八百二十五聯隊、同第八百二十六聯隊、同第八百二十七聯隊、同第八百二十八聯隊、同第八百二十九聯隊、同第八百三十聯隊、同第八百三十一聯隊、同第八百三十二聯隊、同第八百三十三聯隊、同第八百三十四聯隊、同第八百三十五聯隊、同第八百三十六聯隊、同第八百三十七聯隊、同第八百三十八聯隊、同第八百三十九聯隊、同第八百四十聯隊、同第八百四十一聯隊、同第八百四十二聯隊、同第八百四十三聯隊、同第八百四十四聯隊、同第八百四十五聯隊、同第八百四十六聯隊、同第八百四十七聯隊、同第八百四十八聯隊、同第八百四十九聯隊、同第八百五十聯隊、同第八百五十一聯隊、同第八百五十二聯隊、同第八百五十三聯隊、同第八百五十四聯隊、同第八百五十五聯隊、同第八百五十六聯隊、同第八百五十七聯隊、同第八百五十八聯隊、同第八百五十九聯隊、同第八百六十聯隊、同第八百六十一聯隊、同第八百六十二聯隊、同第八百六十三聯隊、同第八百六十四聯隊、同第八百六十五聯隊、同第八百六十六聯隊、同第八百六十七聯隊、同第八百六十八聯隊、同第八百六十九聯隊、同第八百七十聯隊、同第八百七十一聯隊、同第八百七十二聯隊、同第八百七十三聯隊、同第八百七十四聯隊、同第八百七十五聯隊、同第八百七十六聯隊、同第八百七十七聯隊、同第八百七十八聯隊、同第八百七十九聯隊、同第八百八十聯隊、同第八百八十一聯隊、同第八百八十二聯隊、同第八百八十三聯隊、同第八百八十四聯隊、同第八百八十五聯隊、同第八百八十六聯隊、同第八百八十七聯隊、同第八百八十八聯隊、同第八百八十九聯隊、同第八百九十聯隊、同第八百九十一聯隊、同第八百九十二聯隊、同第八百九十三聯隊、同第八百九十四聯隊、同第八百九十五聯隊、同第八百九十六聯隊、同第八百九十七聯隊、同第八百九十八聯隊、同第八百九十九聯隊、同第九百聯隊、同第九百一聯隊、同第九百二聯隊、同第九百三聯隊、同第九百四聯隊、同第九百五聯隊、同第九百六聯隊、同第九百七聯隊、同第九百八聯隊、同第九百九聯隊、同第九百十聯隊、同第九百十一聯隊、同第九百十二聯隊、同第九百十三聯隊、同第九百十四聯隊、同第九百十五聯隊、同第九百十六聯隊、同第九百十七聯隊、同第九百十八聯隊、同第九百十九聯隊、同第九百二十聯隊、同第九百二十一聯隊、同第九百二十二聯隊、同第九百二十三聯隊、同第九百二十四聯隊、同第九百二十五聯隊、同第九百二十六聯隊、同第九百二十七聯隊、同第九百二十八聯隊、同第九百二十九聯隊、同第九百三十聯隊、同第九百三十一聯隊、同第九百三十二聯隊、同第九百三十三聯隊、同第九百三十四聯隊、同第九百三十五聯隊、同第九百三十六聯隊、同第九百三十七聯隊、同第九百三十八聯隊、同第九百三十九聯隊、同第九百四十聯隊、同第九百四十一聯隊、同第九百四十二聯隊、同第九百四十三聯隊、同第九百四十四聯隊、同第九百四十五聯隊、同第九百四十六聯隊、同第九百四十七聯隊、同第九百四十八聯隊、同第九百四十九聯隊、同第九百五十聯隊、同第九百五十一聯隊、同第九百五十二聯隊、同第九百五十三聯隊、同第九百五十四聯隊、同第九百五十五聯隊、同第九百五十六聯隊、同第九百五十七聯隊、同第九百五十八聯隊、同第九百五十九聯隊、同第九百六十聯隊、同第九百六十一聯隊、同第九百六十二聯隊、同第九百六十三聯隊、同第九百六十四聯隊、同第九百六十五聯隊、同第九百六十六聯隊、同第九百六十七聯隊、同第九百六十八聯隊、同第九百六十九聯隊、同第九百七十聯隊、同第九百七十一聯隊、同第九百七十二聯隊、同第九百七十三聯隊、同第九百七十四聯隊、同第九百七十五聯隊、同第九百七十六聯隊、同第九百七十七聯隊、同第九百七十八聯隊、同第九百七十九聯隊、同第九百八十聯隊、同第九百八十一聯隊、同第九百八十二聯隊、同第九百八十三聯隊、同第九百八十四聯隊、同第九百八十五聯隊、同第九百八十六聯隊、同第九百八十七聯隊、同第九百八十八聯隊、同第九百八十九聯隊、同第九百九十聯隊、同第九百九十一聯隊、同第九百九十二聯隊、同第九百九十三聯隊、同第九百九十四聯隊、同第九百九十五聯隊、同第九百九十六聯隊、同第九百九十七聯隊、同第九百九十八聯隊、同第九百九十九聯隊、同第千聯隊、同第千一聯隊、同第千二聯隊、同第千三聯隊、同第千四聯隊、同第千五聯隊、同第千六聯隊、同第千七聯隊、同第千八聯隊、同第千九聯隊、同第千十聯隊、同第千十一聯隊、同第千十二聯隊、同第千十三聯隊、同第千十四聯隊、同第千十五聯隊、同第千十六聯隊、同第千十七聯隊、同第千十八聯隊、同第千十九聯隊、同第千二十聯隊、同第千二十一聯隊、同第千二十二聯隊、同第千二十三聯隊、同第千二十四聯隊、同第千二十五聯隊、同第千二十六聯隊、同第千二十七聯隊、同第千二十八聯隊、同第千二十九聯隊、同第千三十聯隊、同第千三十一聯隊、同第千三十二聯隊、同第千三十三聯隊、同第千三十四聯隊、同第千三十五聯隊、同第千三十六聯隊、同第千三十七聯隊、同第千三十八聯隊、同第千三十九聯隊、同第千四十聯隊、同第千四十一聯隊、同第千四十二聯隊、同第千四十三聯隊、同第千四十四聯隊、同第千四十五聯隊、同第千四十六聯隊、同第千四十七聯隊、同第千四十八聯隊、同第千四十九聯隊、同第千五十聯隊、同第千五十一聯隊、同第千五十二聯隊、同第千五十三聯隊、同第千五十四聯隊、同第千五十五聯隊、同第千五十六聯隊、同第千五十七聯隊、同第千五十八聯隊、同第千五十九聯隊、同第千六十聯隊、同第千六十一聯隊、同第千六十二聯隊、同第千六十三聯隊、同第千六十四聯隊、同第千六十五聯隊、同第千六十六聯隊、同第千六十七聯隊、同第千六十八聯隊、同第千六十九聯隊、同第千七十聯隊、同第千七十一聯隊、同第千七十二聯隊、同第千七十三聯隊、同第千七十四聯隊、同第千七十五聯隊、同第千七十六聯隊、同第千七十七聯隊、同第千七十八聯隊、同第千七十九聯隊、同第千八十聯隊、同第千八十一聯隊、同第千八十二聯隊、同第千八十三聯隊、同第千八十四聯隊、同第千八十五聯隊、同第千八十六聯隊、同第千八十七聯隊、同第千八十八聯隊、同第千八十九聯隊、同第千九十聯隊、同第千九十一聯隊、同第千九十二聯隊、同第千九十三聯隊、同第千九十四聯隊、同第千九十五聯隊、同第千九十六聯隊、同第千九十七聯隊、同第千九十八聯隊、同第千九十九聯隊、同第千百聯隊、同第千百一聯隊、同第千百二聯隊、同第千百三聯隊、同第千百四聯隊、同第千百五聯隊、同第千百六聯隊、同第千百七聯隊、同第千百八聯隊、同第千百九聯隊、同第千百十聯隊、同第千百十一聯隊、同第千百十二聯隊、同第千百十三聯隊、同第千百十四聯隊、同第千百十五聯隊、同第千百十六聯隊、同第千百十七聯隊、同第千百十八聯隊、同第千百十九聯隊、同第千百二十聯隊、同第千百二十一聯隊、同第千百二十二聯隊、同第千百二十三聯隊、同第千百二十四聯隊、同第千百二十五聯隊、同第千百二十六聯隊、同第千百二十七聯隊、同第千百二十八聯隊、同第千百二十九聯隊、同第千百三十聯隊、同第千百三十一聯隊、同第千百三十二聯隊、同第千百三十三聯隊、同第千百三十四聯隊、同第千百三十五聯隊、同第千百三十六聯隊、同第千百三十七聯隊、同第千百三十八聯隊、同第千百三十九聯隊、同第千百四十聯隊、同第千百四十一聯隊、同第千百四十二聯隊、同第千百四十三聯隊、同第千百四十四聯隊、同第千百四十五聯隊、同第千百四十六聯隊、同第千百四十七聯隊、同第千百四十八聯隊、同第千百四十九聯隊、同第千百五十聯隊、同第千百五十一聯隊、同第千百五十二聯隊、同第千百五十三聯隊、同第千百五十四聯隊、同第千百五十五聯隊、同第千百五十六聯隊、同第千百五十七聯隊、同第千百五十八聯隊、同第千百五十九聯隊、同第千百六十聯隊、同第千百六十一聯隊、同第千百六十二聯隊、同第千百六十三聯隊、同第千百六十四聯隊、同第千百六十五聯隊、同第千百六十六聯隊、同第千百六十七聯隊、同第千百六十八聯隊、同第千百六十九聯隊、同第千百七十聯隊、同第千百七十一聯隊、同第千百七十二聯隊、同第千百七十三聯隊、同第千百七十四聯隊、同第千百七十五聯隊、同第千百七十六聯隊、同第千百七十七聯隊、同第千百七十八聯隊、同第千百七十九聯隊、同第千百八十聯隊、同第千百八十一聯隊、同第千百八十二聯隊、同第千百八十三聯隊、同第千百八十四聯隊、同第千百八十五聯隊、同第千百八十六聯隊、同第千百八十七聯隊、同第千百八十八聯隊、同第千百八十九聯隊、同第千百九十聯隊、同第千百九十一聯隊、同第千百九十二聯隊、同第千百九十三聯隊、同第千百九十四聯隊、同第千百九十五聯隊、同第千百九十六聯隊、同第千百九十七聯隊、同第千百九十八聯隊、同第千百九十九聯隊、同第千二百聯隊、同第千二百一聯隊、同第千二百二聯隊、同第千二百三聯隊、同第千二百四聯隊、同第千二百五聯隊、同第千二百六聯隊、同第千二百七聯隊、同第千二百八聯隊、同第千二百九聯隊、同第千二百十聯隊、同第千二百十一聯隊、同第千二百十二聯隊、同第千二百十三聯隊、同第千二百十四聯隊、同第千二百十五聯隊、同第千二百十六聯隊、同第千二百十七聯隊、同第千二百十八聯隊、同第千二百十九聯隊、同第千二百二十聯隊、同第千二百二十一聯隊、同第千二百二十二聯隊、同第千二百二十三聯隊、同第千二百二十四聯隊、同第千二百二十五聯隊、同第千二百二十六聯隊、同第千二百二十七聯隊、同第千二百二十八聯隊、同第千二百二十九聯隊、同第千二百三十聯隊、同第千二百三十一聯隊、同第千二百三十二聯隊、同第千二百三十三聯隊、同第千二百三十四聯隊、同第千二百三十五聯隊、同第千二百三十六聯隊、同第千二百三十七聯隊、同第千二百三十八聯隊、同第千二百三十九聯隊、同第千二百四十聯隊、同第千二百四十一聯隊、同第千二百四十二聯隊、同第千二百四十三聯隊、同第千二百四十四聯隊、同第千二百四十五聯隊、同第千二百四十六聯隊、同第千二百四十七聯隊、同第千二百四十八聯隊、同第千二百四十九聯隊、同第千二百五十聯隊、同第千二百五十一聯隊、同第千二百五十二聯隊、同第千二百五十三聯隊、同第千二百五十四聯隊、同第千二百五十五聯隊、同第千二百五十六聯隊、同第千二百五十七聯隊、同第千二百五十八聯隊、同第千二百五十九聯隊、同第千二百六十聯隊、同第千二百六十一聯隊、同第千二百六十二聯隊、同第千二百六十三聯隊、同第千二百六十四聯隊、同第千二百六十五聯隊、同第千二百六十六聯隊、同第千二百六十七聯隊、同第千二百六十八聯隊、同第千二百六十九聯隊、同第千二百七十聯隊、同第千二百七十一聯隊、同第千二百七十二聯隊、同第千二百七十三聯隊、同第千二百七十四聯隊、同第千二百七十五聯隊、同第千二百七十六聯隊、同第千二百七十七聯隊、同第千二百七十八聯隊、同第千二百七十九聯隊、同第千二百八十聯隊、同第千二百八十一聯隊、同第千二百八十二聯隊、同第千二百八十三聯隊、同第千二百八十四聯隊、同第千二百八十五聯隊、同第千二百八十六聯隊、同第千二百八十七聯隊、同第千二百八十八聯隊、同第千二百八十九聯隊、同第千二百九十聯隊、同第千二百九十一聯隊、同第千二百九十二聯隊、同第千二百九十三聯隊、同第千二百九十四聯隊、同第千二百九十五聯隊、同第千二百九十六聯隊、同第千二百九十七聯隊、同第千二百九十八聯隊、同第千二百九十九聯隊、同第千三百聯隊、同第千三百一聯隊、同第千三百二聯隊、同第千三百三聯隊、同第千三百四聯隊、同第千三百五聯隊、同第千三百六聯隊、同第千三百七聯隊、同第千三百八聯隊、同第千三百九聯隊、同第千三百十聯隊、同第千三百十一聯隊、同第千三百十二聯隊、同第千三百十三聯隊、同第千三百十四聯隊、同第千三百十五聯隊、同第千三百十六聯隊、同第千三百十七聯隊、同第千三百十八聯隊、同第千三百十九聯隊、同第千三百二十聯隊、同第千三百二十一聯隊、同第千三百二十二聯隊、同第千三百二十三聯隊、同第千三百二十四聯隊、同第千三百二十五聯隊、同第千三百二十六聯隊、同第千三百二十七聯隊、同第千三百二十八聯隊、同第千三百二十九聯隊、同第千三百三十聯隊、同第千三百三十一聯隊、同第千三百三十二聯隊、同第千三百三十三聯隊、同第千三百三十四聯隊、同第千三百三十五聯隊、同第千三百三十六聯隊、同第千三百三十七聯隊、同第千三百三十八聯隊、同第千三百三十九聯隊、同第千三百四十聯隊、同第千三百四十一聯隊、同第千三百四十二聯隊、同第千三百四十三聯隊、同第千三百四十四聯隊、同第千三百四十五聯隊、同第千三百四十六聯隊、同第千三百四十七聯隊、同第千三百四十八聯隊、同第千三百四十九聯隊、同第千三百五十聯隊、同第千三百五十一聯隊、同第千三百五十二聯隊、同第千三百五十三聯隊、同第千三百五十四聯隊、同第千三百五十五聯隊、同第千三百五十六聯隊、同第千三百五十七聯隊、同第千三百五十八聯隊、同第千三百五十九聯隊、同第千三百六十聯隊、同第千三百六十一聯隊、同第千三百六十二聯隊、同第千三百六十三聯隊、同第千三百六十四聯隊、同第千三百六十五聯隊、同第千三百六十六聯隊、同第千三百六十七聯隊、同第千三百六十八聯隊、同第千三百六十九聯隊、同第千三百七十聯隊、同第千三百七十一聯隊、同第千三百七十二聯隊、同第千三百七十三聯隊、同第千三百七

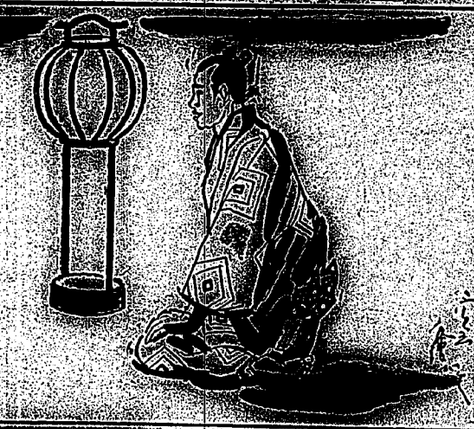
殘月譜

(72)

志乃田廸司作

滑水三重三畫





漢文臺灣日日新報 (四) 昭和七年一月五日 (土曜日) 第一萬一千四百三十五號 (第三種郵便物認可)

陸軍始大觀兵式

大元帥陛下駕臨統閱

代代木原頭在京兩師團參加

飛行隊五十四機飛翔發揮

萬民年觀威武宣揚創日放送全國

八日東電。昭和七年陸軍大觀兵式。當代木原頭。大元帥陛下行幸。威武堂堂。執行近衛。第一兩師團。在京部隊二萬人。及所屬。兩師團八旅軍旗所指。青山練兵場。兩師團參加部隊。午前七時。開始式場。大元帥陛下。乘馬。隨從。參謀。副官。侍從武官。供奉。隊伍。整齊。堂堂。威風。凜凜。陸軍大臣。指揮官。幕僚

臺灣日日新報

本日夕刊共十六頁

歡迎 明治大學野球部一行

臺中停車場前 御旅館 千代乃家本店 電話五〇番・一七一番

彰化街 御旅館 千代乃家支店 電話二一〇番

臺中市榮町二丁目 谷石川呉服店 電話二七番二五〇番

臺中市榮町二丁目 和洋雜貨 貴田商店 電話二一番・二六番 振替臺灣一六五番

臺中市榮町二丁目 肥後屋呉服店 電話二一五番・二一〇番

臺中市錦町 丸三藥房 藤井一康

臺中市錦町四丁目 和洋雜貨 清水本店 電話一四六番

臺中市錦町四丁目 印刷文具 尚文堂印刷所 本店 臺中市錦町三丁目一〇五番 電話一〇三番

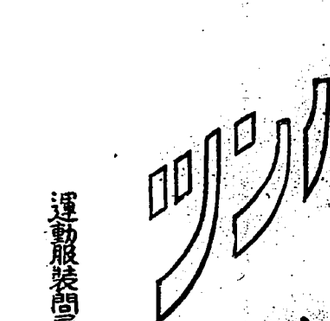
臺中市榮町三丁目 日用雜貨 日興商店 電話六〇九番 莊枝

大東信託株式會社 臺中・臺南・臺北・新竹

臺中市榮町四丁目三番地 陸海運送部 店主楊阿居 電話五七三番 楊阿居

大阪 余田製本印刷機械製造公司

活版機械 石版機械 製本機械 帳簿機械 印刷材料 製本材料 紙器機械



臺灣總代理店 臺北市大和町三丁目 青木小四郎商店 電話二一六五番・二一七五番

株式會社 大倉洋紙店 社長大倉邦彥

東京市日本橋區通一丁目 本店 電話日本橋（二）三四三九・三四三一番

大阪市東區安土町二丁目 大阪支店 電話本局（一）四七二番・六九〇番至六九四番

朝鮮京城南大門通二丁目 京城出張所 電話本局四九〇番

綿糸綿布 人造絹糸 加工綿布 株式會社 豐島商店

全國紡織會社製品特約店 全國人造絹糸會社製品特約店 大阪市東區南本町二丁目

電話長（二）二六七三番・二六七四番・二六七五番・二六七六番・二六七七番・二六七八番 電報略號 豐島 大阪四九〇七番

本日肉食デー 内地肉百匁三十五錢 鳥伊 電話京（二）八四九番

謝罪 朴昌順 王錦徐一李金殿 水越尚四 謝罪狀

のみ易くて害を與へず 福神力也茶

岩戸別と ひらく つつく 輝くも 研ぐも 起てよと 叫ぶ 多木 神代鍬印

粉 肥 木 多 多木製肥所 兵庫縣別府港 株式會社

り香い高氣 ち立泡なかたゆ

鹼石ブラク

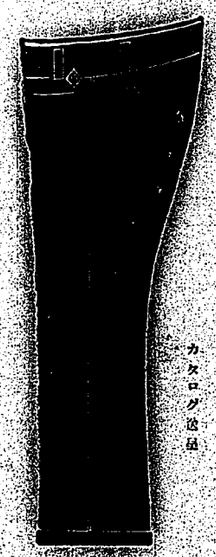
眞白な泡のこまやかさ 洗ひ流したさわやかさ 花の香りがほのぼのと 珠の肌に匂ひます

クラブ石鹸

新形 正價二十錢

ツンパーラーセの春

運動服裝問屋 大阪市東區淡路町 大谷義商店



BLACK CAT

カタログ送呈

當座小切手 約束手形 臺灣銀行 臺灣商工銀行 臺灣貯蓄銀行 臺灣信託 臺灣土地建物 臺灣拓殖 臺灣製糖 臺灣電力 臺灣倉庫 臺灣鐵道 臺灣合同電氣 臺灣日日新報社 臺灣日日新報社印刷部 臺灣日日新報社出版部 臺灣日日新報社販賣部 臺灣日日新報社廣告部 臺灣日日新報社通信部 臺灣日日新報社支局 臺灣日日新報社出張所 臺灣日日新報社代理店 臺灣日日新報社特約店 臺灣日日新報社取次店 臺灣日日新報社販賣所 臺灣日日新報社通信所 臺灣日日新報社廣告取扱所 臺灣日日新報社出版物取扱所 臺灣日日新報社印刷物取扱所 臺灣日日新報社販賣物取扱所 臺灣日日新報社通信物取扱所 臺灣日日新報社廣告物取扱所 臺灣日日新報社出版物販賣所 臺灣日日新報社印刷物販賣所 臺灣日日新報社販賣物販賣所 臺灣日日新報社通信物販賣所 臺灣日日新報社廣告物販賣所 臺灣日日新報社出版物通信所 臺灣日日新報社印刷物通信所 臺灣日日新報社販賣物通信所 臺灣日日新報社通信物通信所 臺灣日日新報社廣告物通信所

三男刃傷犯人 永々病氣療養 甲ノ處置生不相 昨八日午後一時死 去致候間此段 告候

廣瀬萬吉 矢部小松崎幾之 富山榮太郎 神保新吉 中山桃巴 成田拓道

一萬分ノ一帝都大 臺北市街圖 臺北市役所 臺灣日日新報社

臺灣日日新報社 臺灣日日新報社 臺灣日日新報社

聖上陛下還幸の函簿に不敬漢爆弾を投つく

八日午前十一時四十分頃警視廳前で

陛下には御無事還御遊はさる

（東京八日午前十一時五十三分發至急報電通）八日天皇陛下代々木觀兵式場より宮城に向つて還幸の途中午前十一時四十五分櫻田門外警視廳正門側の奉送堵列者の中から手榴彈様のものを投けたものあり犯人は二十四五歳位の男で鮮人らしく直ちに逮捕された

犯人は鮮人士工の李奉昌

事件直後逮捕さる—警保局發表

（東京八日午後六時五十分發至急報電通）昭和七年一月八日天皇陛下陸軍觀兵式行幸より還御の途中鹵簿櫻田門外警視廳前にて手榴彈様のものを投じたるが其の内容左の如し

本日午前十一時四十四分頃鹵簿麹町區櫻田町警視廳前より突然鹵簿第二輛の宮内大臣乘用の馬車（御料車の前方十八間）に手榴彈様のものを投じたるものあり犯人は直ちに逮捕された

その他に異狀なく十一時五十分御無事宮城に還御遊ばされた

警視廳警視石森勳夫、巡査本多恒義、山下惣平及び河合憲兵上等兵、内田憲兵軍曹等において之を逮捕し警視廳に引致して目下取調中なるがその氏名年齢左の如し

朝鮮京城生れ赤山昌一事土工李奉昌（當二十二年）

【東京八日發鄰合至急報】内務省午後五時三十分發表によれば本日午前十一時四十三分聖上陛下還幸の途櫻田門外警視廳前で手擲彈やうのものを投じたものあり（鹵簿第二輛目御料車前方十八間）御料車異狀なく十一時五十分還御遊ばされた、犯人は直ちに逮捕された、取調べの結果當人は朝鮮京城生れ朝山正一事土工李奉昌（三二）と判明した

在京閣員の辭表を捧呈

犬養首相午後五時八分參內して

八日午後五時八分參內して

（東京八日發電通至急報）犬養首相は八日午後五時八分參內して内在京閣員全部の辭表を捧呈した

中橋、山本、前田三相は九日歸京して辭表提出

【東京八日發至急報電通】目下旅行中の閣僚山本農林、前田商工、中橋內務の各相は明日歸京後辭表を奉呈することとなつた

各大臣も天機を奉伺

（東京八日發電通）犬養首相、鈴木法相、素拓相、鳩山文相、荒木陸相、大角海相は八日午後零時二十分宮中に參內天機を奉伺した

犬養首相に大命再降下か

【八日ラヂオ受信】犬養首相以下各閣の辭表捧呈により陛下におかせられては後繼內閣につき牧野內府に御下問があつたので牧野內府は更に鈴木侍從長をして九日興津に赴かしめ西園寺公に陛下の御下問を傳へることとなつたが老公はその儘に及ばざる旨を答へ今日に至つたのは只引きするものと見られてゐるので恐らく大命は犬養氏に再降下するであらう、但し內相のみはいたく恐懼の意を表してゐるので大命再降下となるも內相は辭任することとならう

九日午後御沙汰あらん

【東京八日發電通】不敬事件に關する犬養內閣の辭表奉呈に對し陛下よりは何あるまで政務を執れとの御沙汰あらせられたが陛下には即日侍從長を通じて西園寺公に御下問あらせらるべく拜察さるるが本日は猶內相、鳥相、兩相が旅行中で辭表奉呈すべく並に不閣員の辭表が揃ふ譯であるからその上で犬養首相に對する何分の御沙汰あるべしと見られてゐる

犬養首相に優諚を賜ふ

【東京八日午後六時二十二分發至急報電通】內閣發表、犬養總理は各閣僚の辭表奉呈に對し陛下よりは何あるまで政務を執れとの御沙汰あらせられたが陛下には即日侍從長を通じて西園寺公に御下問あらせらるべく拜察さるるが本日は猶內相、鳥相、兩相が旅行中で辭表奉呈すべく並に不閣員の辭表が揃ふ譯であるからその上で犬養首相に對する何分の御沙汰あるべしと見られてゐる

政府緊急閣議を開く

（東京八日發電通）政府は八日午後一時より緊急閣議を開くことゝなつた

山本權兵衞伯首相と會談

【東京八日發電通】山本權兵衞伯は八日午後二時犬養首相を訪ひ重要會談を遂げた

第二次山本內閣に倣ひ直ちに骸骨を乞ひ奉る

長警視總監は辭表提出

【東京八日發至急報】犬養內閣は大正十二年十二月難波大助の大逆事件に對する第二次山本內閣の先例に倣ひ本日直ちに骸骨を乞ひ奉る所あつたが之に先だち長警視總監は辭表を提出した

誠に恐懼の至り

宮內大臣謹話

【東京八日發電通至急報】八日午後八時宮內省發表宮內大臣談

八日陸軍始觀兵式に於ける一部の不逞の者の狀はれて驚く內閣に對しまり不敬の極に及ぼしたる事件に關し誠に恐懼の至りである

內閣の親任式行はれず

山岡氏の長官に反對が出て

汪兆銘が辭任の通電

病狀愈〻重態さる

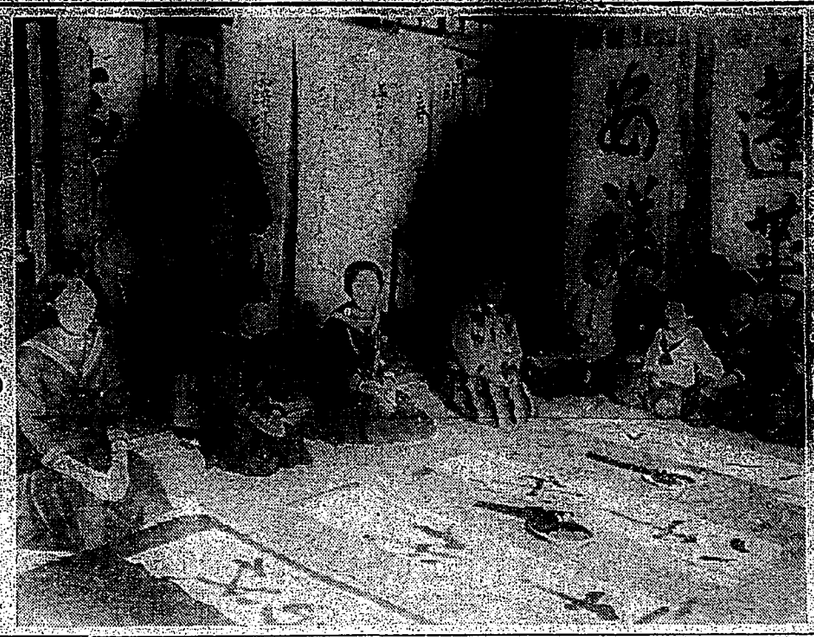
【上海八日發至急電通】汪兆銘は國の

外科　皮膚科　一番瀬醫院　本町二丁目　電話七八八番
內科　殿村醫院　京町一丁目　電話一二四番
外科　大場醫院　大和町四丁目　電話二八〇番
產婦人科　鶴田醫院　京町辰馬通り　電話二一七番
眼科　筒井醫院　大和町四丁目（商銀北側）　電話二六五番
耳鼻咽喉科　藏田醫院　本町二丁目（博物館前）　電話二八七番
齒科　小林醫院　京町二丁目（電燈通り）　電話二八二番
小兒科　關屋醫院　京町五丁目二番地　電話二二三番
內科　皮膚科　千本醫院　臺北市本町二ノ六（中央前）　電話九四〇八番
外科（眼科）　蔭沼醫院　本町二丁目　電話九五四番

壽山公園の一部に警官療養所を新設

本田高雄州警務部長の奔走で

東南部の警官に大福音



臺南の新年書道展覽會（公會堂にて）

日月潭附近で新春の捕物

強力の竊盜犯人が

兩刑事と大亂鬪

臺南の觀兵式

八日臺南公園廣場で

花蓮港の觀兵式

發明協會の看板で四千餘圓を詐欺

特許の手續をしてやるとて

發明者から手數料として騙取

屏東飛行隊の空中分列式

後藤聯隊長の閲兵

陳列窓を破り貴金屬を竊取

業南州鹽水街の泥棒

中堅郡警察課武術始め

臺南の講習會

織田南部兩氏

麻豆街の火事

高雄三井支店首腦部更迭

新營郡下街庄産業技手打合

臺灣軍軍醫部野外作業

埔里だより

花蓮港の賣出捕鯨

癩病で溺死

大屯郡下街庄協議會日割

高雄港十二月中の漁獲高

虚僞の訴へ

借金に窮した一策

強盜に襲はれた

血相を變へて飛出す

祖先の地を旅して……

支那を旅して……

物騒な外國の感

中南支那視察から歸った

臺北地方法院判官　浜崎生氏談

第一番に感じた事

臺灣の人

第二番に感じた事

附和雷同

鹽東には

痛切に與へられたもの

無學文盲

馬公新年婦人交禮會

全國家畜防疫會議

準備打合會

嘘の様な實話

JFAK

九日

冷え

下痢

便秘

寒い時の注意

冷えと下痢と便秘は

痔疾患者の大禁物

これぞ三拍手揃つた痔疾藥

世界に於ける外科治療最初の古書

面白い傳說

僅か數回の手當

女給入用

無代進呈

痔疾患者の福音

中堅

家庭教師

貸家

販賣員募集

喬なかだち

日月潭附近で新春の捕物

強力の竊盜犯人が

兩刑事と大亂鬪

臺南の觀兵式

八日臺南公園廣場で

花蓮港の觀兵式

發明協會の看板で四千餘圓を詐欺

特許の手續をしてやるとて

發明者から手數料として騙取

屏東飛行隊の空中分列式

後藤聯隊長の閲兵

陳列窓を破り貴金屬を竊取

業南州鹽水街の泥棒

中堅郡警察課武術始め

臺南の講習會

織田南部兩氏

麻豆街の火事

高雄三井支店首腦部更迭

新營郡下街庄産業技手打合

臺灣軍軍醫部野外作業

埔里だより

花蓮港の賣出捕鯨

癩病で溺死

大屯郡下街庄協議會日割

高雄港十二月中の漁獲高

虚僞の訴へ

借金に窮した一策

強盜に襲はれた

血相を變へて飛出す

祖先の地を旅して……

支那を旅して……

物騒な外國の感

第一番に感じた事

臺灣の人

第二番に感じた事

附和雷同

鹽東には

痛切に與へられたもの

無學文盲

馬公新年婦人交禮會

全國家畜防疫會議

準備打合會

嘘の様な實話

JFAK

九日

冷え

下痢

便秘

寒い時の注意

冷えと下痢と便秘は

痔疾患者の大禁物

これぞ三拍手揃つた痔疾藥

世界に於ける外科治療最初の古書

面白い傳說

僅か數回の手當

女給入用

無代進呈

痔疾患者の福音

中堅

家庭教師

貸家

販賣員募集

喬なかだち

漢文 臺灣日日新報 昭和七年二月九日（土曜日） 臺灣日日新報 第一万一千四百三號 （第三種郵便物認可）

美政府對于滿洲事變 決定訴諸不戰條約

七日華盛頓至急電。美國政府。對滿洲事變。適用不戰條約

不戰條約適用手續 電訓在東京美大使

七日華盛頓電。美國政府。將滿洲事變。訴諸不戰條約其手續由在東京美國大使館為之。此事已訓電於同大使云。又司科遜長官。七日午前。逸出淵大使。通告適用不戰條約之事。將此事情說明。

決出某種外交手段 適用九箇國條約

華府七日發聯合。國務長官司科遜氏。本日會見英、法大使等。其結果。關於日本在乙吉郎滿洲。將滿關係列國向日本政府。為當然所以某種之外交手段。又外交手段。為適用非戰國條約。

美政府對日通牒 用語相當強硬

華盛頓七日發聯合。美政府。因日本軍。占據錦州。關于滿洲情勢。本日對日本政府。新發通牒。此內容。為九箇國條約之下。自國軍撤去。務欲擁護為要點。該通牒。際關係約之下。是不戰條約。可得適用於此事件。於國。

結局開國際會議耶 外交通馬特教授之見解

倫敦七日發聯合。英政府。關于滿洲問題。引用九箇國條約。對日本政府。新發通牒。關此報道。聯盟理事會英代表西斯爾勳。告英政府之九箇國條約。有極重大意義。而牛津大學以外交通聞名之魏馬特教授。亦披瀝自己見解如左。

九箇國條約。在其七條。有締約國中一國。動起侵犯同條約之問題時。不論何時。四條締約國間。可得十分。無隔意交涉。因有此規定。結局締約國間。關于滿洲問題。新開國際會議。亦未可料。

美國大統領 對中華顏公使 披瀝同情見解

新任駐美公使顏惠慶氏。本日往白宮。訪問胡佛大統領。捧呈信任狀。胡佛大統領。對顏氏。關于極東情勢云。美政府深為懸念。重新為表明。後對中華。披瀝極同情之見解如左。

美政府。於國際諸條約之下。十分注意自國義務。關於極東情勢之推移。特為深甚考慮注意。余因美政府形成民主的國家之根抵。就為期達成關此諸原則之中華國民現在國爭。深為同情關心。而欲中止之。希傳達于貴國政府。並中華國民也。

不戰條約適用 效果難以期待 美國有此意見

七日華盛頓電。美國政府對日行動。雖有美國上院有力議員支持。然日本既以實力支配滿洲之今日。其效果難期待。有此意見云。

蓬萊圓糯慘落 內外惡材料俱出

八日朝々雨。定期米賣。現發叉起。各地一齊起值。放立春時。阪神東京各地期米為起。三二十丁。追接華盛頓來電。謂美政府決定適用不戰條約。絲一齊暴落。米亦漸落。午後東電報道大襲首相于午後參內後。閣緊急閣議協議某重大事件。結局似將總辭職。後場一箭。米落二十丁。東新株後場激落。大引反騰。或料內閣無事。蓬萊米早。朝當限倘有七圓四十錢。造市場立舍。蓬萊已落至七圓二十錢臺。後場々內七圓。場外人氣恐慌。落至六圓七八十錢。圓糯早朝十圓六隊繼續期工作。三、以會名義。印紙封緘。分送各商戶。於十二月二十五日起。自動標封所有日貨。第三期。（自十二月二十六日起。至二十一年一月四日止）。勸導隊出發勸導商戶。完成標封日貨工作。勸導各商會。於其商會館等。均負重責。前項期限後。加害者將十九圓送取包紙。或發票上印「本貨物不用日貨」字樣。出血甚多。登時跌枚。出血甚多。登時跌命。裝作常態。健率工作。被害官吏。看出破綻。事前難防。一時自世。只是消水。

南州鹽分地 改良六千甲 現進行調查及其他等

既報臺南州。為明年度特殊事業中之須下海岸地方。水年度中。預定實施面積。九百甲。然各郡已要求約一千三百甲。於是州當局將縮減指導班。凡各郡下選定水稻輪作地。著手調查區域。待決定實施地後。即行播下水稻付適當條件。交付補助金。於本年四月。著手準備。至六月中。完全一切調查。繪行開始給水。聞自州當局。發表前記計畫後。各海岸地方民。皆非常喜躍云。

厦門抗日會計畫 對本邦經濟絕交 結隊遊街到處演說

厦門。抗日會。自滿洲事變。至十五日止。一倪各校勒以來。盛行示威。每日結隊遊街。到處演說。頒布排斥日貨宣傳單。並於康莊大道上。懸懸大白布。大書打倒○○○○文字。且於客廬氏。對該地商界發出對本邦經濟絕交計畫書。其內容。一、各四期。一、期自十二月六日起。一期自十二月六日起。

方訴諸不戰條約中用語 用九國條約

七日華盛頓電。美國政府。鑑于滿洲情勢。非常重大。而關于日本軍事行動。不論何時。四條締約國間。可得十分。無隔意交涉。因有此規定。結局締約國間。關于滿洲問題。新開國際會議。亦未可料。

聯盟許中華代表辭任 後任為顏惠慶氏

上海八日發電通。聯盟許連中華代表施肇基氏辭任。後任氏決定任命顏惠慶氏。

林出書記官 往南京 述就任視辭

上海七日發電通。林出書記官。代理重光公使。於七日午後十一時四十五分發上海。向南京。是為對新任外交部長陳友仁。及政府首腦林森兩氏。述就

陳部長確立 對日策

得中央承認實行

南京七日電通。據中華一發報道。陳友仁。因確立對日策。俟得中央承認後。即行實行。又陳部長。邀英、美、法所若干總領事。會見。且一九二八年八月二十七日。在巴里所調印之與日本中國英國供為締盟國之巴里條約之精神及其義務相反之力。

慘殺水戶夫妻 懸賞犯人似共產學生 若不再惡化僑民不要撤退

非常狼狽。而裡面頗就反對態度。元旦在英帝國院。行軍事教練。省政府劃門。貢氏指揮之五十云師。相繼集于福州。水戶氏夫妻被慘殺。想四欲放火于日本人小學校。被水戶氏發見。遂起兇行。又領事及其他。於是當票。郡警察課。石非課長及松本司法主任等。急赴現場。而新竹州刑事。發現兩氏中國輿論。表面極平靜。事件若無以上惡化。居留民會。已欲撤退兩氏。無撤退之要也云々。

公館出鑛坑 命案續報 凶手不日送院

既報新竹州當黑郡公館庄。出鑛坑第四十六號。水油井。發休憩室。荷臘歲除。發見坑。夫遇日裕。被發屍慘。於是當票。郡警察課。石非課長及松本司法主任等。急赴現場。而新竹州刑事。發現兩氏中國輿論。表面極平靜。事件若無以上惡化。居留民會。已欲撤退兩氏。無撤退之要也云々。

臺南州下 農作物霜害

臺南州下。昨今兩次。霜害。北港。東石各郡。海岸地方。去五日。朝降霜。為是新栽。甘藷。及落花生其他。被害甚大。目下各郡當局。正著手調查被害程度。

東石警察課 新春行事

臺南州東石郡警察課。依吉例。去八日午前十時起。假郡廳武場。舉行武術始。

臺北觀兵式 在練兵場 總督等參觀

既報臺北衛戍部隊。去八日陸軍始兵式。是日午前十時。在臺北練兵場舉式。定刻前。一步。山砲隊。及步中等學生隊等。齊集自鐵山寺儀隊司令官。總指揮。至定刻。真臨軍司令官。乘馬入場。各隊以同。總旨之號令。希送於日。兩軍。其迅。號成文如左。

一九三二年。九月十八日以前所存在之滿洲中華共和國最後政權之錦州四最近軍事行動而破滅。美國政府。依最近國際聯盟理事會所任命之中立國委員會。日下對于日華關係。重要之調查隊密調查。坑抵制之好面。報告於會。與以

調查中國委員長 任英國聿頓卿 其他均承諾聯盟職員隨

七日南京電。英天法德意五個國。代表選出國際通聯于各分會。前各地方。各分會。某某。

臺南州鄉軍 募獻金

臺灣在鄉軍人會。義討伐奧國中。臺南州聯合分會。自十七分會之分配額一萬四千圓。自各職命。後。裝作常態。健率工作。被害官吏。看出破綻。事前難防。一時自世。只是消水。

俟行政整理後 設糖業試驗所 長亦既內定

既內定。是故障地等。應所長就任後決定。藉為建築云。

喜訊

漢文臺日茶內

故鄉

復旦旅館

廣告

失印廣告

公徐阿鎮

時評

○

琿春獨隊代々木聯隊。大阪參加師團及飛行隊。各展機能。以揚威武。其於諸出鬼沒之馬賊大頭目老三省。或折衝懇招。或餌首領順。而皇軍之威德。不亦愚哉。

○

滿蒙地方。三數月間。能使政權。舊軍閥。不留片影者。國軍權威之賜也。

○

南京新政府。能否享處時。何以匡救之。

○

良足多矣。獨此後能使華民。相安無事。乃真救民水火之王師也。

○

死守功勝之隊。猶遇古山。神出鬼沒之馬賊大頭目老三省。或折衝懇招。或餌首領順。而皇軍之威德。不亦愚哉。

○

愚地長官更迭。消息頻傳。隊行不還矣。從來屬地非情。這不屬於本土。官長之人。一年一易。本人不利雖經。愚地所損大。已所不舉。亦以惡人。此士之國如英。理當更布妙策。以補弊之。

○

國中一般行情。尤如米價。特殊株價。忽暴忽跌。二十條日來。變幻無常。此後照位圓。於七日午後二時開緊急閣議。

○

滿蒙對策中 外務陸軍聯合協議

八日東京電。外務陸軍聯合協議會。七日午後二時至六時之間開會。就「都所出案滿蒙對策中。特如二、滿蒙懸案解決後事業。二、資本問題。三、滿蒙新政權對外之方策。四、在滿諸機關統一。」等。東京今後出安維持範圍等。協議。

汪兆銘病狀不良 辭任中央諸要職

汪兆銘氏。自抱病。辭任中央黨部常務委員。已發出通電。又往氏病狀不良。七日陷有昏睡狀態。三時間後。雖意識復甦。然頗覺憂慮。

張景惠氏齊哈入城 黑龍江省長就任式

七日齊々哈爾電。張景惠氏。六日夜十一時半。于日華官民多數出迎之中。入齊々哈爾城。七日午前九時。我旅團司令部。訪鈴木旅團長慰勞。午前十一時。在督辦公署。舉黑龍江省省長就任式。

國務長官 說明書發表

七日華盛頓電。司閣遜長官。七日午前四時（我八日午前六時）。招致新聞記者。就遠洲事變發表說明書。

英國重視 日軍抵山海關

七日倫敦電。七日朝報倫敦。日軍抵山海關。英國重視。

後任未定 將公使辭任

英人所重視之。

芳澤大使 迎過滿洲里

七日滿洲里電。芳澤大使。七日午後九時半。通過當地。向哈爾賓去。

開祝賀會 鐵嶺西南 騎馬賊出現

七日鐵嶺電。七日朝匪賊。襲來中。發表如左。

美國國務省。對日本及中國。各發附同一通牒。

不戰條約適用所關 米國務省通牒成文

七日華盛頓電。美國國務省。兩政府。各國政府。于現在事態上關係。不得任之視辭。

滿蒙對策中 外務陸軍聯合協議

八日東京電。外務陸軍聯合協議會。七日午後二時至六時之間開會。就「都所出案滿蒙對策中。特如二、滿蒙懸案解決後事業。二、資本問題。三、滿蒙新政權對外之方策。四、在滿諸機關統一。」等。東京今後出安維持範圍等。協議。

汪兆銘病狀不良 辭任中央諸要職

汪兆銘氏。自抱病。辭任中央黨部常務委員。已發出通電。又往氏病狀不良。七日陷有昏睡狀態。三時間後。雖意識復甦。然頗覺憂慮。

張景惠氏齊哈入城 黑龍江省長就任式

七日齊々哈爾電。張景惠氏。六日夜十一時半。于日華官民多數出迎之中。入齊々哈爾城。七日午前九時。我旅團司令部。訪鈴木旅團長慰勞。午前十一時。在督辦公署。舉黑龍江省省長就任式。

國務長官 說明書發表

七日華盛頓電。司閣遜長官。七日午前四時（我八日午前六時）。招致新聞記者。就遠洲事變發表說明書。

英國重視 日軍抵山海關

七日倫敦電。七日朝報倫敦。日軍抵山海關。英國重視。

後任未定 將公使辭任

英人所重視之。

芳澤大使 迎過滿洲里

七日滿洲里電。芳澤大使。七日午後九時半。通過當地。向哈爾賓去。

開祝賀會

七日華盛頓電。司閣遜長官。七日午前四時（我八日午前六時）。招致新聞記者。就遠洲事變發表說明書。

竹州下產組 總會日程

新竹州下各產業組合。本月中。通常總會日期。記明如左。

九日北芎。林信組。十日關西信購。十二日北埔信組。十四日大興信組。十六日埔仔坑。山兩信組及中港信購。十七日紅毛信購。及總山。後龍兩信組。十八日南崁。八結。義興三信組。及竹南建築組合。十九日竹圍。員林兩信組。及頭份金融組合。二十日中壢。平鎮。龍潭。三信組。二十五日。楊梅。三湖。苑裡三信組。及竹州購買組。二十六日。竹州米穀販賣利用組。及老田窯業組。併新屋信購。二十七日。觀音信組。二十八日朝。日建築。及大溪信組。其後騰逐。艦亦入港。四是上海八日發電通。聯盟許連中華代表施肇基氏辭任。後任氏決定任命顏惠慶氏。

方訴諸不戰條約中用語 用九國條約

七日華盛頓電。美國政府。鑑于滿洲情勢。非常重大。而關于日本軍事行動。不論何時。四條締約國間。可得十分。無隔意交涉。因有此規定。結局締約國間。關于滿洲問題。新開國際會議。亦未可料。

聯盟許中華代表辭任 後任為顏惠慶氏

上海八日發電通。聯盟許連中華代表施肇基氏辭任。後任氏決定任命顏惠慶氏。

林出書記官 往南京 述就任視辭

上海七日發電通。林出書記官。代理重光公使。於七日午後十一時四十五分發上海。向南京。是為對新任外交部長陳友仁。及政府首腦林森兩氏。述就

陳部長確立 對日策

得中央承認實行

南京七日電通。據中華一發報道。陳友仁。因確立對日策。俟得中央承認後。即行實行。又陳部長。邀英、美、法所若干總領事。會見。且一九二八年八月二十七日。在巴里所調印之與日本中國英國供為締盟國之巴里條約之精神及其義務相反之力。

慘殺水戶夫妻 懸賞犯人似共產學生 若不再惡化僑民不要撤退

非常狼狽。而裡面頗就反對態度。元旦在英帝國院。行軍事教練。省政府劃門。貢氏指揮之五十云師。相繼集于福州。水戶氏夫妻被慘殺。想四欲放火于日本人小學校。被水戶氏發見。遂起兇行。又領事及其他。於是當票。郡警察課。石非課長及松本司法主任等。急赴現場。而新竹州刑事。發現兩氏中國輿論。表面極平靜。事件若無以上惡化。居留民會。已欲撤退兩氏。無撤退之要也云々。

公館出鑛坑 命案續報 凶手不日送院

既報新竹州當黑郡公館庄。出鑛坑第四十六號。水油井。發休憩室。荷臘歲除。發見坑。夫遇日裕。被發屍慘。於是當票。郡警察課。石非課長及松本司法主任等。急赴現場。而新竹州刑事。發現兩氏中國輿論。表面極平靜。事件若無以上惡化。居留民會。已欲撤退兩氏。無撤退之要也云々。

臺南州下 農作物霜害

臺南州下。昨今兩次。霜害。北港。東石各郡。海岸地方。去五日。朝降霜。為是新栽。甘藷。及落花生其他。被害甚大。目下各郡當局。正著手調查被害程度。

東石警察課 新春行事

臺南州東石郡警察課。依吉例。去八日午前十時起。假郡廳武場。舉行武術始。

臺北觀兵式 在練兵場 總督等參觀

既報臺北衛戍部隊。去八日陸軍始兵式。是日午前十時。在臺北練兵場舉式。定刻前。一步。山砲隊。及步中等學生隊等。齊集自鐵山寺儀隊司令官。總指揮。至定刻。真臨軍司令官。乘馬入場。各隊以同。總旨之號令。希送於日。兩軍。其迅。號成文如左。

一九三二年。九月十八日以前所存在之滿洲中華共和國最後政權之錦州四最近軍事行動而破滅。美國政府。依最近國際聯盟理事會所任命之中立國委員會。日下對于日華關係。重要之調查隊密調查。坑抵制之好面。報告於會。與以

調查中國委員長 任英國聿頓卿 其他均承諾聯盟職員隨

七日南京電。英天法德意五個國。代表選出國際通聯于各分會。前各地方。各分會。某某。

臺南州鄉軍 募獻金

臺灣在鄉軍人會。義討伐奧國中。臺南州聯合分會。自十七分會之分配額一萬四千圓。自各職命。後。裝作常態。健率工作。被害官吏。看出破綻。事前難防。一時自世。只是消水。

俟行政整理後 設糖業試驗所 長亦既內定

既內定。是故障地等。應所長就任後決定。藉為建築云。

喜訊

漢文臺日茶內

故鄉

復旦旅館

廣告

失印廣告

公徐阿鎮

山本伯訪首相 重要協議

八日東京電。本日午後一時。山本權兵衛伯。訪犬養首相。作重要協議。

犬養首相暨各大臣 入宮面請聖安

八日東京電。犬養首相。鈴木內相。大角海相。八日午後一時。山本權兵衛伯。訪犬養首相。作重要協議。

開緊急閣議

八日東京電。政府于八日午後二時。開緊急閣議。

滿蒙對策中 外務陸軍聯合協議

八日東京電。外務陸軍聯合協議會。七日午後二時至六時之間開會。就「都所出案滿蒙對策中。特如二、滿蒙懸案解決後事業。二、資本問題。三、滿蒙新政權對外之方策。四、在滿諸機關統一。」等。東京今後出安維持範圍等。協議。

汪兆銘病狀不良 辭任中央諸要職

汪兆銘氏。自抱病。辭任中央黨部常務委員。已發出通電。又往氏病狀不良。七日陷有昏睡狀態。三時間後。雖意識復甦。然頗覺憂慮。

張景惠氏齊哈入城 黑龍江省長就任式

七日齊々哈爾電。張景惠氏。六日夜十一時半。于日華官民多數出迎之中。入齊々哈爾城。七日午前九時。我旅團司令部。訪鈴木旅團長慰勞。午前十一時。在督辦公署。舉黑龍江省省長就任式。

國務長官 說明書發表

七日華盛頓電。司閣遜長官。七日午前四時（我八日午前六時）。招致新聞記者。就遠洲事變發表說明書。

英國重視 日軍抵山海關

七日倫敦電。七日朝報倫敦。日軍抵山海關。英國重視。

後任未定 將公使辭任

英人所重視之。

芳澤大使 迎過滿洲里

七日滿洲里電。芳澤大使。七日午後九時半。通過當地。向哈爾賓去。

開祝賀會

七日華盛頓電。司閣遜長官。七日午前四時（我八日午前六時）。招致新聞記者。就遠洲事變發表說明書。

竹州下產組 總會日程

新竹州下各產業組合。本月中。通常總會日期。記明如左。

九日北芎。林信組。十日關西信購。十二日北埔信組。十四日大興信組。十六日埔仔坑。山兩信組及中港信購。十七日紅毛信購。及總山。後龍兩信組。十八日南崁。八結。義興三信組。及竹南建築組合。十九日竹圍。員林兩信組。及頭份金融組合。二十日中壢。平鎮。龍潭。三信組。二十五日。楊梅。三湖。苑裡三信組。及竹州購買組。二十六日。竹州米穀販賣利用組。及老田窯業組。併新屋信購。二十七日。觀音信組。二十八日朝。日建築。及大溪信組。其後騰逐。艦亦入港。四是上海八日發電通。聯盟許連中華代表施肇基氏辭任。後任氏決定任命顏惠慶氏。

林出書記官 往南京 述就任視辭

上海七日發電通。林出書記官。代理重光公使。於七日午後十一時四十五分發上海。向南京。是為對新任外交部長陳友仁。及政府首腦林森兩氏。述就

陳部長確立 對日策

得中央承認實行

南京七日電通。據中華一發報道。陳友仁。因確立對日策。俟得中央承認後。即行實行。又陳部長。邀英、美、法所若干總領事。會見。且一九二八年八月二十七日。在巴里所調印之與日本中國英國供為締盟國之巴里條約之精神及其義務相反之力。

慘殺水戶夫妻 懸賞犯人似共產學生 若不再惡化僑民不要撤退

非常狼狽。而裡面頗就反對態度。元旦在英帝國院。行軍事教練。省政府劃門。貢氏指揮之五十云師。相繼集于福州。水戶氏夫妻被慘殺。想四欲放火于日本人小學校。被水戶氏發見。遂起兇行。又領事及其他。於是當票。郡警察課。石非課長及松本司法主任等。急赴現場。而新竹州刑事。發現兩氏中國輿論。表面極平靜。事件若無以上惡化。居留民會。已欲撤退兩氏。無撤退之要也云々。

公館出鑛坑 命案續報 凶手不日送院

既報新竹州當黑郡公館庄。出鑛坑第四十六號。水油井。發休憩室。荷臘歲除。發見坑。夫遇日裕。被發屍慘。於是當票。郡警察課。石非課長及松本司法主任等。急赴現場。而新竹州刑事。發現兩氏中國輿論。表面極平靜。事件若無以上惡化。居留民會。已欲撤退兩氏。無撤退之要也云々。

臺南州下 農作物霜害

臺南州下。昨今兩次。霜害。北港。東石各郡。海岸地方。去五日。朝降霜。為是新栽。甘藷。及落花生其他。被害甚大。目下各郡當局。正著手調查被害程度。

東石警察課 新春行事

臺南州東石郡警察課。依吉例。去八日午前十時起。假郡廳武場。舉行武術始。

臺北觀兵式 在練兵場 總督等參觀

既報臺北衛戍部隊。去八日陸軍始兵式。是日午前十時。在臺北練兵場舉式。定刻前。一步。山砲隊。及步中等學生隊等。齊集自鐵山寺儀隊司令官。總指揮。至定刻。真臨軍司令官。乘馬入場。各隊以同。總旨之號令。希送於日。兩軍。其迅。號成文如左。

一九三二年。九月十八日以前所存在之滿洲中華共和國最後政權之錦州四最近軍事行動而破滅。美國政府。依最近國際聯盟理事會所任命之中立國委員會。日下對于日華關係。重要之調查隊密調查。坑抵制之好面。報告於會。與以

調查中國委員長 任英國聿頓卿 其他均承諾聯盟職員隨

七日南京電。英天法德意五個國。代表選出國際通聯于各分會。前各地方。各分會。某某。

臺南州鄉軍 募獻金

臺灣在鄉軍人會。義討伐奧國中。臺南州聯合分會。自十七分會之分配額一萬四千圓。自各職命。後。裝作常態。健率工作。被害官吏。看出破綻。事前難防。一時自世。只是消水。

俟行政整理後 設糖業試驗所 長亦既內定

既內定。是故障地等。應所長就任後決定。藉為建築云。

喜訊

漢文臺日茶內

故鄉

復旦旅館

廣告

失印廣告

公徐阿鎮

臺北市婦人 新年交禮會

臺北市婦人。新年交禮會。

竹州三郡下 國防費發送 計九十七圓餘

竹州三郡下。國防費發送。計九十七圓餘。

搜拿色鬼

新竹市南門外。人陳某。

英國重視 日軍抵山海關

七日倫敦電。七日朝報倫敦。日軍抵山海關。英國重視。

後任未定 將公使辭任

英人所重視之。

芳澤大使 迎過滿洲里

七日滿洲里電。芳澤大使。七日午後九時半。通過當地。向哈爾賓去。

開祝賀會

七日華盛頓電。司閣遜長官。七日午前四時（我八日午前六時）。招致新聞記者。就遠洲事變發表說明書。

竹州下產組 總會日程

新竹州下各產業組合。本月中。通常總會日期。記明如左。

九日北芎。林信組。十日關西信購。十二日北埔信組。十四日大興信組。十六日埔仔坑。山兩信組及中港信購。十七日紅毛信購。及總山。後龍兩信組。十八日南崁。八結。義興三信組。及竹南建築組合。十九日竹圍。員林兩信組。及頭份金融組合。二十日中壢。平鎮。龍潭。三信組。二十五日。楊梅。三湖。苑裡三信組。及竹州購買組。二十六日。竹州米穀販賣利用組。及老田窯業組。併新屋信購。二十七日。觀音信組。二十八日朝。日建築。及大溪信組。其後騰逐。艦亦入港。四是上海八日發電通。聯盟許連中華代表施肇基氏辭任。後任氏決定任命顏惠慶氏。

林出書記官 往南京 述就任視辭

上海七日發電通。林出書記官。代理重光公使。於七日午後十一時四十五分發上海。向南京。是為對新任外交部長陳友仁。及政府首腦林森兩氏。述就

陳部長確立 對日策

得中央承認實行

南京七日電通。據中華一發報道。陳友仁。因確立對日策。俟得中央承認後。即行實行。又陳部長。邀英、美、法所若干總領事。會見。且一九二八年八月二十七日。在巴里所調印之與日本中國英國供為締盟國之巴里條約之精神及其義務相反之力。

慘殺水戶夫妻 懸賞犯人似共產學生 若不再惡化僑民不要撤退

非常狼狽。而裡面頗就反對態度。元旦在英帝國院。行軍事教練。省政府劃門。貢氏指揮之五十云師。相繼集于福州。水戶氏夫妻被慘殺。想四欲放火于日本人小學校。被水戶氏發見。遂起兇行。又領事及其他。於是當票。郡警察課。石非課長及松本司法主任等。急赴現場。而新竹州刑事。發現兩氏中國輿論。表面極平靜。事件若無以上惡化。居留民會。已欲撤退兩氏。無撤退之要也云々。

公館出鑛坑 命案續報 凶手不日送院

既報新竹州當黑郡公館庄。出鑛坑第四十六號。水油井。發休憩室。荷臘歲除。發見坑。夫遇日裕。被發屍慘。於是當票。郡警察課。石非課長及松本司法主任等。急赴現場。而新竹州刑事。發現兩氏中國輿論。表面極平靜。事件若無以上惡化。居留民會。已欲撤退兩氏。無撤退之要也云々。

臺南州下 農作物霜害

臺南州下。昨今兩次。霜害。北港。東石各郡。海岸地方。去五日。朝降霜。為是新栽。甘藷。及落花生其他。被害甚大。目下各郡當局。正著手調查被害程度。

東石警察課 新春行事

臺南州東石郡警察課。依吉例。去八日午前十時起。假郡廳武場。舉行武術始。

臺北觀兵式 在練兵場 總督等參觀

既報臺北衛戍部隊。去八日陸軍始兵式。是日午前十時。在臺北練兵場舉式。定刻前。一步。山砲隊。及步中等學生隊等。齊集自鐵山寺儀隊司令官。總指揮。至定刻。真臨軍司令官。乘馬入場。各隊以同。總旨之號令。希送於日。兩軍。其迅。號成文如左。

一九三二年。九月十八日以前所存在之滿洲中華共和國最後政權之錦州四最近軍事行動而破滅。美國政府。依最近國際聯盟理事會所任命之中立國委員會。日下對于日華關係。重要之調查隊密調查。坑抵制之好面。報告於會。與以

調查中國委員長 任英國聿頓卿 其他均承諾聯盟職員隨

七日南京電。英天法德意五個國。代表選出國際通聯于各分會。前各地方。各分會。某某。

臺南州鄉軍 募獻金

臺灣在鄉軍人會。義討伐奧國中。臺南州聯合分會。自十七分會之分配額一萬四千圓。自各職命。後。裝作常態。健率工作。被害官吏。看出破綻。事前難防。一時自世。只是消水。

俟行政整理後 設糖業試驗所 長亦既內定

既內定。是故障地等。應所長就任後決定。藉為建築云。

喜訊

漢文臺日茶內

故鄉

復旦旅館

廣告

失印廣告

公徐阿鎮

臺北市婦人 新年交禮會

臺北市婦人。新年交禮會。

竹州三郡下 國防費發送 計九十七圓餘

竹州三郡下。國防費發送。計九十七圓餘。

搜拿色鬼

新竹市南門外。人陳某。

張佩綸誄聯

基隆天陽丸 漂至中堰 乘組員無事

基隆市某氏所有發動船天陽丸。二十五馬力。出漁中。至去七日午前三時。其夫人某。之妻。陳王氏。阿秀。代除國造。身行。兒。一騎云「等國。身行。」欲出市。立。搖尾。來。洋。搭。船。魚。類。全部流。出。致。阿秀。被夫斥責。盆。魂。係。國人所。明也。李。初。作。稱。老。女。通。常。總。會。日。期。記。于。左。

老夫婦生子

駐蒲縮。國人。關。結。構。克。地。九。有。一。臨。床。老。婦。年。已。七十六歲。結婚。已五十四年。並未生育。近老所生。一子。胖。異常。產後。月。子。康健。其。年。已八十。

臺北市婦人 新年交禮會

臺北市婦人。新年交禮會。

竹州三郡下 國防費發送 計九十七圓餘

竹州三郡下。國防費發送。計九十七圓餘。

搜拿色鬼

新竹市南門外。人陳某。

張佩綸誄聯

基隆天陽丸 漂至中堰 乘組員無事

基隆市某氏所有發動船天陽丸。二十五馬力。出漁中。至去七日午前三時。其夫人某。之妻。陳王氏。阿秀。代除國造。身行。兒。一騎云「等國。身行。」欲出市。立。搖尾。來。洋。搭。船。魚。類。全部流。出。致。阿秀。被夫斥責。盆。魂。係。國人所。明也。李。初。作。稱。老。女。通。常。總。會。日。期。記。于。左。

老夫婦生子

駐蒲縮。國人。關。結。構。克。地。九。有。一。臨。床。老。婦。年。已。七十六歲。結婚。已五十四年。並未生育。近老所生。一子。胖。異常。產後。月。子。康健。其。年。已八十。

東亞の謎

（169）

作者　國枝史郎
畫家　伊藤順三

童話

逃げ出したお猿さん

山下忠三

東都の狼窟（九）

「その娘は何處にるるのだな？」

「百本原城にるるのでござる。」

「俺は日本の親さんが好きだ。苦労（ママ）して育てて呉れた。」

「何にとぞその親さんを救って來るやうにつて、すがりつてるるのでござる。」

「なるたけ急いで來るやうにとの事だな。」

「左樣でござる。」

「分つた。俺が必ず來てやるから、お前は百本原城へ歸つて待つてゐるがいい。」

「あの娘は私にとつて、命にも換へられない大事な娘でござる。」

「何の娘さに賴まれやうが、俺は行かない。」

「私が必ず來て娘さんを救つて來ますから、どうぞ私に暇を下さいまし。」

「俺が行かないと言つたら行かない。」

「

猿の話

上野動物園長　黒川義太郎

猿の種類さまざま

猿は昔からその種類が他の動物に比較して大変に多いといふのだ、猿と人間とは姿からこれを見ても解る通り動作や習慣へ見た所が一寸似てゐるといふ点から、又猿の方でも人間に一寸似てゐるといふ点から、いろいろ不思議な関係が猿と人間との間にあるものである。猿の種類は世界中に非常に多くの種類があるが、大体アフリカ産のものと、アジア産のものとの二つに分けることが出来る。

アフリカ産のウーリーモンキー、同アメリカのマーモセットモンキー等の猿類は尾が長くて物を巻き付けるに便利な様に出来てゐるが、アジア産のものは尾が短くて物を巻き付けるには不便な様に出来てゐる。

猿の家族生活

日本猿は一匹の大猿が数匹の雌猿と共に家族生活をなすといふことを前にも述べたが、この家族生活をなすといふことは日本猿ばかりでなく、アジア産の猿類は大抵皆家族生活をなすものが多い。

日本猿の棲息する地方は大分あるが、その主なるものは四国、九州と本州の一部、即ち同じ緯度の地方である。日光の山地に棲んでゐる猿が一番多くまた九州地方産のものが多い。

これに反してアフリカ産のものは、この二つの種類が定めし違つてゐるだらうと考へられるが、しかしこれは全く同一の種類で、気候の関係から東北地方産の猿はその毛色が薄黄色を帯びてをり、九州産のものは少し灰色がかつて毛の先が白くなつてゐる位の相違である。

日光猿の特長といへば尾長猿類と比べて尾が一般に短いことである。あつても一寸内外位のものがついてゐるだけだ。体軀の大きさは猿としては大体中等大のものである。

性質は極めて温和である。手とり習かげや穴の中に果を作つて一夫多妻の家族生活を営んでゐる。

また熱帯地方に於ける猿々やゴリラのやうな猿々類は木の上に巣を作つて寝んでゐる。これは猿類の内では全く特殊のもので、先づごろよい木を見つけると木の枝や葉を持つてきてこれを組合せて巣を作る。非常に相巣なものだがその作り方の早いのには感心する。彼等は雨の間は地上に降りて遊んでゐるが夜になるとその巣に跳つて眠るのである。

命令を伺へて喧嘩を止めさせるのだ。

猿の食物は雑食性で、木の実や草の葉、昆虫類、鳥類、小獣類、魚類、蛙類、蟹類、蝸牛類、蚯蚓類、蜥蜴類、蛇類、蜘蛛類、蠍類、蜈蚣

諸國の正月行事

▲伊那地方のどんど焼き

とんどとは左義長の事で、小正月の行事である。どんどの呼び方は地方によつて種々あるが、伊那地方ではとんどと呼んでゐる。とんどは十四日の夜に行はれるのが普通であるが、地方によつては十五日の夜に行ふ所もある。とんどの行はれる場所は、村の中央の空地か、又は村の中を流れる川原である。とんどの材料は、各戸から持ち寄つた門松、七五三飾りなどである。とんどの日が近づくと、子供等は各戸を廻つて、とんどの材料を集めるのである。

▲朝鮮の悪魔追ひと跳板

朝鮮の悪魔追ひは、毎年陰暦の正月十五日の夜に行はれる。この夜は、家毎に門口に松明を燃やし、家の中では、豆を炒つて、悪魔の目を打つ音をさせる。

跳板は、高さ十尺位の台の上に、長さ二間位の板を渡し、その両端に、二人の男が乗つて、交互に跳ね上げるのである。

▲ロシアの新年

ロシアでは、新年を祝ふ為に、クリスマスツリーを飾る。ツリーは、樅の木を用ひ、その枝に、蠟燭、金銀紙、玩具、菓子などを飾る。

▲ルーマニアの新年

ルーマニアでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲ブルガリアの新年

ブルガリアでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲ポーランドの新年

ポーランドでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲ハンガリーの新年

ハンガリーでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲ドイツの新年

ドイツでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲フランスの新年

フランスでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲イタリーの新年

イタリーでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲スペインの新年

スペインでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲ポルトガルの新年

ポルトガルでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲オランダの新年

オランダでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲ベルギーの新年

ベルギーでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲スイスの新年

スイスでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲デンマークの新年

デンマークでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲スウェーデンの新年

スウェーデンでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲ノルウェーの新年

ノルウェーでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲フィンランドの新年

フィンランドでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲エストニアの新年

エストニアでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲ラトビアの新年

ラトビアでは、新年の朝、家族の者が、一人残らず、寝台の上に集まつて、新年の祝詞を述べ合ふ。

▲リトアニアの新年

リトアニ

賀正

京華社

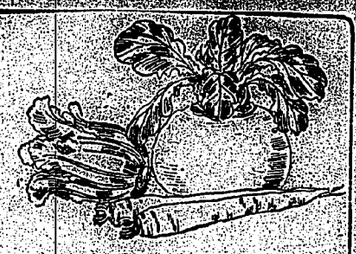
銘酒 菊水 花本本家吟醸

謹製 花本本家吟醸

全 合資會社 金澤茂七商店

大阪市北區太融寺門前

電話大阪二八二三番
電話北三九一〇〇番



葉、蔬菜、甘藍
種、草花、
子及農具、
並ニ殺蟲劑

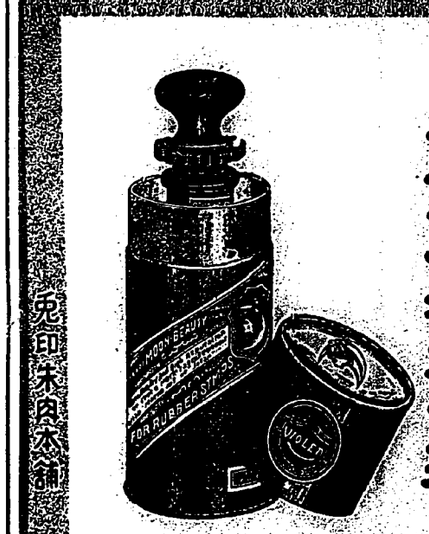
◆卸賣專門

謹啓次第カタログ進呈

謹啓次の御品質の如何に御望之無之とも總計共の節は御地部校所又は府廳にて御問合せの上大阪府廳又は大阪商業會議所へ御照會相成度候

本年も亦た御愛顧の程御祈申上候

御料理 鳳凰 石崎株式會社

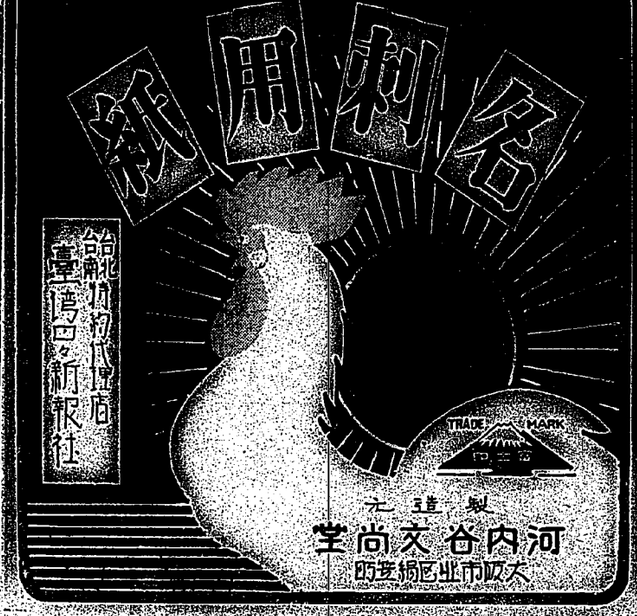


月美人印 スタンプインキ

兎印朱肉太鋪

紙用物各

台北 物料代理店
台南 臺灣日々新報社



製造元 河内谷文尚堂
大阪市西淀川區西淀

ルレーバ栗乳
子栗養栄の以上

御増答用として貰つても贈つても一ばんに御重寶!!

一家揃つて新春の健康は先づ乳栗バーレルの使用から

ぬれさか缺も日一
子菓御のルタ

部菓製社星ルタ大阪元寶號

洋紙商

株式會社 中井商店

本店　東京市日本橋區十軒店町
支店　大阪市東區瓦町二丁目五十七番地
　　名古屋市西區傳馬町七丁目十三番地
出張所　京都市三條通東洞院西入
　　門司市西本町二丁目

大阪商船株式會社專屬
稅關貨物取扱免許人

株式會社 商船組

出張所　神戸市海岸通五丁目元町（二一八四番）
　　堺市戎島町二丁目（堺九七一番）
本店　大阪市北區宗是町二番地
　　大阪ビルヂング一階（自四八二一番至四八二二番）
　　（自九三五〇番至九三五五番）

市内荷受場

港區富島町稅關構內（電話西一八二一番）
西區南堀江分局南詰（電話西三〇九番）
此花區安治川住友倉庫（電話西一〇六五番）
東區神崎町一丁目（電話西一九三一番）
西區信濃橋東詰北一丁目（電話本町一五八三番）
北區西堀川町三番地（電話北一〇三七番）
此花區上福島南一丁目一二六（電話西一二一八番）

株式會社 大同洋紙店出張所

目品業營

◎模造紙　◎A印刷紙　枇杷印刷紙　銀杏印刷紙　ゴルフ印刷紙
◎有光紙　◎金銀紙　美大仁唐紙　瑞桃連史紙　金鼎連史紙
◎機械半紙　◎畫學用紙　毛邊紙　◎連史紙　荷札用紙
各種茶包紙　帳簿用紙　新聞更紙　各種筆記用紙　便箋用紙

臺北市大和町四丁目二番地（電話一九四四番）

本店　大阪市東區安土町一丁目卅七番地
支店　東京市京橋區銀座三丁目四番地
　　名古屋市西區下園町二丁目十四番地
　　京都市下京區綾小路通東洞院西入本魚屋町
出張所　大連、天津、上海、廣東、門司

糖業の善處すべき
金輸出禁止の對策
過剰生産の整理と統業の基調整理

砂糖評論家　山下久四郎

一、歐洲戰後の世界不況が、一九二九年末頃から米國の大恐慌に波及し、加へられた一九三〇年世界的の物價大低落を來し、從つて同年末頃から一層深刻化した世界の不況は、其の原因を根本的には資本主義經濟組織の避るべき宿命の問題と云ふ點に根本的に出發するが、現實の經濟組織の變化、又は金融機關の不均衡、國際間の不均衡等多くの歷史的の事情が重なつて、今日の如く慢性化した世界の不況が出現したのである。

一九三一年九月英國が金本位停止を斷行して以來、世界の金融界は俄然として動搖し、從つて同年末頃から一層深刻化した世界の不況は、其の原因を根本的には資本主義經濟組織の避るべき宿命の問題と云ふ點に根本的に出發するが、現實の經濟組織の變化、又は金融機關の不均衡、國際間の不均衡等多くの歷史的の事情が重なつて、今日の如く慢性化した世界の不況が出現したのである。

一九三一年九月英國の

新報廣告

本邦唯一のグラビアインキ製造工場

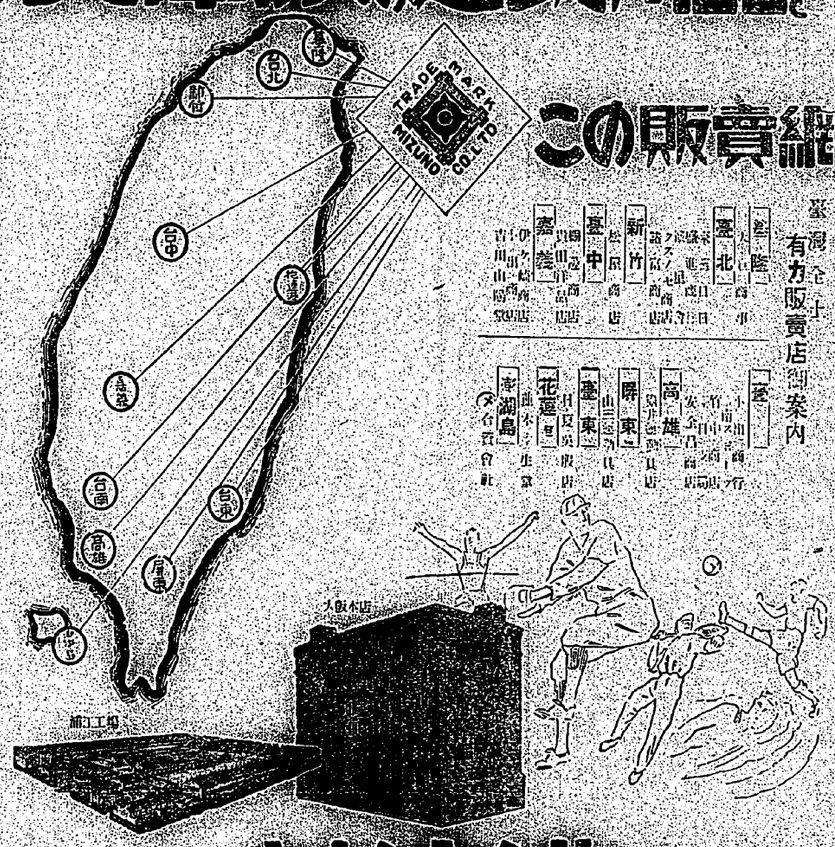
合資會社 日本グラビアインキ工業所

本社工場　兵庫縣尼崎市外小田村西長洲　電話尼崎九七四番

東京工場　東京市外池上町十二天一番地　電話大森一七二一番

全島を風靡する

美津濃の運動用品と



この販賣網

臺灣全土有力販賣店網案内

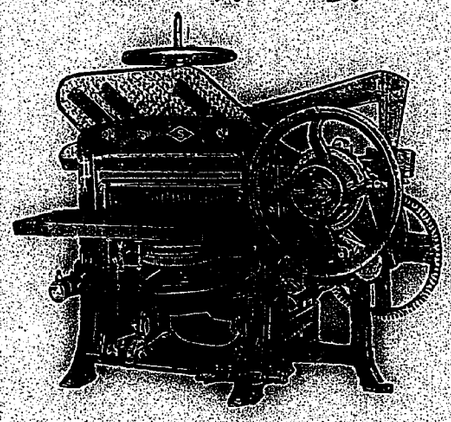
臺一	臺北	臺南
臺二	臺中	臺東
臺三	新竹	花蓮
臺四	高雄	澎湖島

運動服類　美津濃　運動用具類

卸部　大阪淀屋橋　大阪・東京・神戸　京都・名古屋・大阪

最新自動紙断締機截機

櫻井式



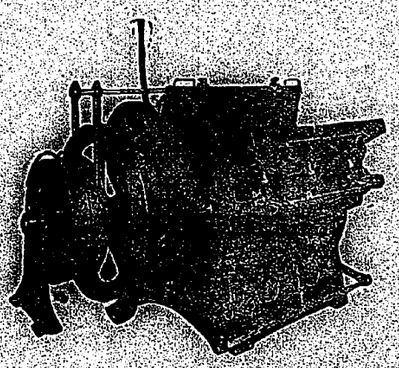
最大五尺六寸迄

◉弊所多年の努力研究の結晶として生れた理想的斷截庖刀ラクダ印庖刀を一度是非共使用あれ品質優良

船來品を確實に壓倒した優秀なる國産品の出現に注目せられよ

◎如何ナル紙デモ最モ克ク締リ完全ニ截ヶ得ル自動裝置押出定規ト紙ノ出ガ敏ク作業ガ自由デアリマス

一回轉ヲ速且ツ輕快ニ運轉ス



本機は各種紙函用に適し筋を付け打拔を同時になす故に筋と外徑が最も精確に出來上ります。

營業課目

紙斷截機械、製本用機械、紙工用機械、庖刀研磨機、斷截庖刀各種、特別製作品シーリングスタンプ印刷機、菊版ハードボード筋付打拔機、

大阪市東區東雲町二丁目

櫻井鐵工所

電話東四一〇六番　振替大阪五三五〇九番

現在の事實上の情態に何等合法性を認めず
米國務省の通牒成文

【ワシントン七日發電通】アメリカ國務省は七日午後九時（日本時間八日午前十一時）左の通り發表した

アメリカ國務省は日本及び支那兩國に姿らんことを希望した後、尚ほ兩國に姿らんことを希望した通牒を日支兩國に送附した

一九三一年九月十八日以前に存在せる事態を兩國政府の承認なき限り何等合法性を認めずとのアメリカ政府の政策は一九三二年一月七日附通牒に依り世界に宣明せられたるところなるが

アメリカ政府は現在の事實上の情態に何等合法性を認めず、又兩國政府又はその代理者が支那の主權及び獨立又は領土及び行政の保全又は一般に門戸解放政策として知られてゐる國際政策に關係あるアメリカ國民の條約上の權利を毀損する如き如何なる條約又は協定をも承認する意思なきことを通告するに當り

アメリカ政府は現在の情態及びこれに關聯して發生し得べき事態に對し一九二八年八月二十七日パリにおいて調印せられ兩國政府の批准を了したる不戰條約又は協定を承認する意思なき旨を通告するものである

不戰條約適用につき米國一部の意見

【ワシントン七日發電通】アメリカ政府は現在の情態に對し不戰條約適用につき一部の意見あるを以て國務長官スチムソンは七日午後三時より新聞記者團と會見し

アメリカ政府は日本の滿洲に於ける行動に關し國際聯盟の態度と關聯して獨自の立場を採つてゐるが

聯盟が日本の滿洲に於ける行動に關し不戰條約適用につき一部の意見あるを以て國務長官スチムソンは七日午後三時より新聞記者團と會見し

アメリカ政府は現在の情態に對

健康は國への奉公のはじめ

食欲を増進する調味料

味の素

登錄商標

大いに食欲を旺にして健康の下地を養へ

1-K
[店商木鈴] 鍋本家の味 達用御省內宮